し、康煕二十年華山の下に卒す。年六十九。〔34東高師〕

【淸朝に於ける戰亂の重なるもの三及其原因結果】

三藩の亂、阿片戰爭、長髪賊の亂なり。

三藩の亂

淸廷は明の降將吳三桂、尙可喜、耿繼茂を各々雲南、廣東福建に封せしが、聖祖は竊に之を除かんとする心ありしかば、三藩自ら安んぜす。遂に叛せり。然れども互に相和せず、遂に淸軍の爲に鎭めらる。

阿片戰爭

兩廣總督林則除は廣東の英商貯藏の阿片を燒棄し、且英人の通商を禁じたれば、英國怒りて兵を起せしが、淸國敗れ、南京條約を結び、償金を出し、香港を割き、且五港を開けり。

長髪賊の亂

洪秀全淸國の虛弱に乘じ亂を起し、廣西に據り、國を太平天國と稱す。淸廷はイギリス人等の援助を得て、之を平定せり。

【淸朝に於ける著しき事件五】〔36海機〕

三藩の亂、阿片戰爭、長髪賊の亂、淸佛戰爭北淸事變。〔37海兵、37東高商〕

【モグール帝國の興起】

帖木兒五世の孫バベルは、アフガンより起り、一五二六年パンヂャブに侵入し、パニパットの一戰に、ロヂ王朝を倒し、印度の北西部を定め、モグール帝國を建てたり。〔38專門〕

【アクバル大帝】

モグール國第三代の主にして、バベルの孫、フマユンの子なり。父フマユン失政の後國內亂れしを、位に即くに及び、英邁の資を以て意を內治に盡し、北中兩印度を定めて、アグラに都し、非回敎徒稅を廢し、信敎の自由を許し、婆羅門敎徒と婚を通じて、其心を收めしかば、人民悅服して大帝となし、帝國の基礎始めて强固となれり。〔40東高師〕

【モグール帝國の滅亡】

イギリス人は、印度を征服せし以來、着々內治の改良に從事せしが、印度の國民は、宗敎風俗を異にせるイギリス人の覊絆を悅はず。殊に其領土を奪はれたる土着諸侯等は、深くイギリス人を惡み、イギリス人が緬甸と兵を交へて、印度の守備の薄きを機とし、ベンガルの土兵先づ亂を起し、恒河流域地方は此に響應せしが、幾ならずして鎭定し、モグール帝は此反亂に與せしを以て、其尊號を失ひ、緬甸のラングーンに幽閉せられたり。アクバルの建國より、三百二年にて、モグール帝國は全く滅亡せり。〔38專門、39陸士〕

【マーラタ同盟】

ムガール帝國のアウランクゼブは、殆ど全インドを統一せしが、回數を尊信する餘り、非回教徒税を復し、温都教徒を壓せしかば、民心漸く離反し、殊に南インドの温都教徒は、マーラタ同盟を組織して、其迫害に抵抗したり。由て帝は一六八三年、自ら大軍に將として、之を征すること廿余年。功なくして崩じ、其繼嗣庸劣なりしかば、マーラタ同盟の勢益猖獗となり、是よりインド騷亂相繼ぎ、遂にイギリス東印度會社をして、土地占領を議決せしむるに至れり。其後同盟南北に分れ、北派はフランスに援けられ、南派はイギリスの黨する處となれりしが、後イギリスが南方を席捲するに及び、南派のマーラタも自ら安せず。一八一七年、北派と協力してイギリスに抵抗し、全く敗亡せり。〔33六高〕

【アジアに於けるイギリスの經營】

イギリス人は、一五七九年始て印度に航せしより、印度暹羅爪哇等に商館を開き、次で我國及支那とも通商せしが、日本の貿易はオランダ人に妨げられ、支那の貿易はポルトガル人に妨げられて、大に振ふ能はざりしも、獨り印度に於ては、次第に勢力を增進し、オランダ、ポルトガルの商人を壓倒し、次でフランス人と競爭して勢力を挫き、遂に印度帝國を建設し、緬甸を取り、馬來半島亦イギリスの保護を仰ぐに至れり。〔39海兵〕

【イギリス印度侵略】

英國東印度會社は、專ら印度の經營に從事し、モグール帝國の衰亂に乘じて、土地の蠶食を企て、マドラス・ポンベー・カルカッタ等を占領し、此時印度貿易に從事せるフランスと競爭して、遂に同國の占領地を奪ひ、次でヘスチングス始めて印度總督となり、益土地の侵略を企て、モグール帝を仰へ、次で同帝國を亡ぼし、印度全く英人の手に歸し、英國女王ヴィクトリヤは、印度女帝の位に即き、東印度會社の政權を收むるに至れり。〔34東高商、42海機〕

【印度に於けるイギリスの勢力樹立の次第】

前二條を見よ。〔34東高商〕

【近世印度に於けるイギリス、フランスの權力爭奪】

ヨーロッパに於て、遠洋航海の術大に發達するに及び、各國競ひて貿易を開きしが、イギリス人は、一六〇〇年東印度會社を建て、專ら印度の經營に從事し、ポルトガル、オランダ兩國人に代りて、印度の商權を握り、更に土地の蠶食を企て、マドラス、ボンベイ、カルカッタ等を占領せり。此時に當りフランス人亦東印度會社を建て、東洋貿易に着手し、ポンヂシエリー、シャンデルナカツル等を占領し

て、イギリス人と覇權を爭ひ、フランス人チュプレー恩威を以て、巧に印度諸侯を籠絡し、一時イギリス人の勢力を壓倒せしが、イギリス東印度會社の書記クライヴ膽略ありて善く戰ひ、フランス人と土人との聯合軍をプラッシーに擊破せり。加ふるにフランス政府、亦印度經營に熱誠ならず、遂にチュプレーを召還せしかば、フランス人の占領地は、殆ど擧げてイギリス人の手に歸せり。〔42陸主候、43陸士〕

【ヘスチングス】

イギリス人。一七五一年印度に航し、東印度商會の書記となる。プラシー戰後益立身して、

カルカッタの參事官となり、一七七二年ベンガルの知事となる。翌年印度總督に任ぜられ、劃策する所あり。一七八五年辭職し、本國に歸り、國人の嫌疑を受け、彈劾せられしが、八年を經て漸く晴天白日の身となり、放釋せられたり。〔39長高商、41外語〕

【鴉片(阿片)戰爭】

清宣宗道光年中に於ける、英淸の戰爭を云ふ。初淸廷阿片の輸入を杜絕し、以て時弊を救はんとせしが、密賣盛に行はれ、其目的を達する能はず。宣宗位に即くに及び、林則徐を擧げて、兩廣總督となし、以て其事を管せしむ。則徐廣東の英商に嚴命し、其所藏の阿片二萬餘函を燒棄せしも、尙密賣を企つる者多かりしかば、遂に通商を禁じたり。是に於て英國は大に怒り、將軍ズレメル軍艦を卒ゐ、五市の復舊を迫り、舟山列島を占領し、廣東、厦門、寧波等を封鎖し、次て英將ゴーフ後援の軍を卒ゐて來り、廣東を占領し、北上して連に寧波、乍浦を陷れ、又吳淞、鎭江を取りて南京に迫りしかば、淸廷遂に和を請ひ、耆英、伊里布を遣り、英國全權公使ポッチンヂャーと、南京に會して和約を結び、淸は償金二千百萬兩(二千八百万圓)を出し、香港を割讓し、上海、寧波、福州、厦門、廣東の五港を開くことを諾せり。之を南京條約と云ふ。〔33美術、33東高師、33二高、34海兵、40外語、40女高師、42海兵、42陸士〕

【香港】

支那南方の要港、イギリスの領地なり。阿片戰爭の結果、一八四二年の南京條約により、淸國は此地をイギリスに割讓せり。〔40各高等、40長高商、41海兵〕

【林則徐】

淸の宣宗の時湖廣總督なりしが、上書して阿片の害を論じ、爲に兩廣總督に任せられ、嚴に鴉片の貿易を禁じ、遂にイギリスと戰端を開くに至れり。淸廷和を主とするに及び、其職を免せられしが、後長髮賊の亂起るや、

文宗の命を受けて征討の途に上り中途にして病死せり。〔35東高師、39各高等、41東高師、42山高商〕

【長髮賊の亂】

淸の宣宗の時阿片戰爭ありて、其後淸廷の威嚴大に衰へしに乘じ、一八四九年、廣西の人洪秀全耶蘇敎に附會し、自ら耶蘇の次弟と稱して、亂を廣西に起し、國を太平天國と云ひ、湖南を略し、揚子江畔の諸城を屠り、遂に南京を陷れて之に據れり。是より先宣宗崩じ、文宗立ちしが、詔して勤王の軍を徵す。是に於て曾國藩、李鴻章、左宗棠等所在に鄕勇を募りて賊を伐ちしも、賊勢容易に衰へず。かくて文宗崩じ、穆宗立つに及び、專ら長髮賊の鎭定に從事し、アメリカ人ワルド、イギリス人ゴルドン等を聘し、洋槍隊を編成して之を伐つ、李鴻章等亦勢を得、共に力を合せ、賊勢爲に大に挫く。南京陷るに及び、洪秀全藥を仰ぎて死す。十五年に亙れる大亂始めて平ぐ。之を長髮賊の亂と云ふ。〔39陸士、41商船、42海兵、43東高師〕

【洪秀全】

長髮賊の亂魁、廣西の人なり。宣宗の末年亂を起し、國を太平天國と號し、自ら天王と稱す。湖南を略し、揚子江畔の諸城を屠り、遂に南京を陷れ、勢甚だ盛なり。然れとも遂に淸兵の爲破られ、毒を仰ぎて自殺す。此亂前後十五年、淸國の疲弊益甚しくなれり。〔36各高等、39長高商〕

【曾國藩】

湖南湘卿の人なり。文宗の時、長髮賊勢盛なる時に當り、親の喪に居り鄕に在りしが、詔を受けて兵を募り、衡山、衡陽の賊を討滅し、咸豐四年武昌を降し、漢陽を下し、九江を取り、五年水軍を率ゐて、江西を平定す。八年兩江總督となり、浙江の軍務を兼掌し、李鴻章及弟曾國荃と共に賊を平定す。同治十一年歿す。〔33東高師、37海機、40女高師、42長高商〕

【ゴルドン】（戈登）

イギリスの工兵少佐、勇悍にして義侠心あり。其淸國に在るや、長髮賊の亂起り、支那人及歐米人を以て組織せる洋鎗隊を指揮し、至る所奇功を奏せり。世人由て之を常勝軍と云ふ。其後一旦故國に歸り、次てスーダン遠征に從ひ、ハルツームに於て、マヘジに圍まれ、一八八五年アラビア人の爲殺さる。〔37東高師、三高〕

【十九世紀に於ける英淸兩國の關係】

イギリス東印度會社は、連年鴉牙を淸國に輸入して、其害毒を流すを甚しかりしがば、淸

國之を禁じ、一八四〇年鴉牙戰爭を起し、一八四二年南京條約により、香港を割取し、次で一八五六年、廣東府吏擅にイギリス船アーロー號を搜索し、淸人十二名を捕へし事より、フランスと同盟して、天津に逼り、假條約成りしが、翌年淸兵の反抗に逢ひ、再び連合して遂に北京に入り、一八六〇年和議成る。日淸戰爭後、ロシアが旅順口を借入れしと同樣の條件を以て、威海衞を租借したり。〔38海兵〕

【一八五八年の天津條約】

イギリス、フランスと淸國との間に結ばれたる假條約なり。是より先、イギリスはアロー號事件より、フランスは宣敎師殺害事件より、

軍を併せて廣東を陷れ、北上して白河に入り、直に天津に逼る。是に於て淸廷大に恐れ、和議を開かんことを請ひ、六月廿六日イギリスの使節エルヂン卿、フランスの使節グロー男と、淸國全權委員穆親王との間に成れる條約なり。〔41海兵〕

【ムラビヨフ】

ロシアの將軍なり。東部シベリア總督となり、黑龍江畔の經營に着手し、一八五一年其江口に一城を築き、時の皇帝ニコライ一世の名を取りて、ニコライスクと命ず。又淸廷が長髮賊の亂に苦めるに乘じ、逼りて國界改定を要求し、有名なる愛琿(アイグン)條約を結ばしめたり。

【イグナチエフ】〔39山高商〕

ロシアの將軍にして、且外交家なり。一八六〇年、英佛同盟軍天津を陷れ、進んで北京を陷れ、淸の文宗難を熱河に避くるや、イグナチエフは露國公使として北京に在り。淸と英佛の間に立ち、調停の勞を取り、其報酬として、北京條約を結ばしめ、烏蘇里江東日本海に瀕する一帶の地を割かしめたり。〔43七高〕

【愛琿條約】

一八五八年淸とロシアと、愛琿に於て結びたる條約なり。是より先ロシアはネルチンスキ條約締結後、尙東亞侵略の策を講じ、ムラビヨフは、黑龍江の地を占領して、淸國の界に侵入し、淸の長髮賊の亂あるに乘じ、新に國境を定めんことを要求して已まざりしかば、淸より奕山を遣はし、左の如く約せしむ。即黑龍江を以て兩國の界と定め、烏蘇里江東岸の地を、兩國共有の地となし、且ロシア人に松花江烏蘇里江の通航權を許與せることなり。〔37各高等、39陸士〕

【浦鹽斯德】

ロシア語にて東方鎭守の義なり。ロシア領シベリア沿海州の首府にて、一八六〇年北京條約によりロシアが、ウスリ地方を淸國より讓受くるに及び、警備兵の駐剳地となり、又海軍

鎭守府となり、今やシベリア鐵道の終點として、益經濟上よりも其發達を來すに至れり。〔41長高商〕

【伊犂條約】

清國に於て内には長髮賊の亂、外には英佛の來侵等ありて、疲弊せるに乘じ、天山南路及伊犂の回敎徒は、叛亂を起せしが、ロシアは邊境を安んずるを名とし、兵を進め伊犂を占領せしかば、陝甘總督左宗棠此亂を鎭定し、露軍の撤退を求む。露軍應ぜず。戰將に開かれんとす。由て清國は曾紀澤を露都ペテルブルグに遣はして談判せしめ、遂にホルゴス河を以て兩國の境とし、償金九百萬ルーブルを拂ひて局を結べり。之を伊犂條約と云ふ。時に我明治十四年なり。〔37東高師、45七高〕

【淸佛戰爭】

越南はフランスとの戰爭の結果、其保護國となりしも、淸國は越南の外藩なることを主張して、異議を唱へ、兩國間の平和遂に破れ、フランスの艦隊は、淸の福建艦隊を擊破して、臺灣の諸港を封鎖せり。次で兩國天津に和を講じ、淸國は越南に對する權利を棄て、東京をフランス領となすに至れり。時に明治十八年なり。〔40海兵、41陸士〕

【ロシアノ中央アジア侵略】

ロシアは、ウラル河とシル河との間に、游牧あるキルギス部を服し、更に中央アジアに基華、布哈拉、浩罕の三汗國鼎立して、相爭へるに乘じ、先づ布哈拉を降し、一八七三年基華を服し、共に之を保護國とし、次で一八七六年浩罕を滅ほし、メルヴを略せり。〔34東高師〕

【ロシアのヒバ征服の年代】

一八七三年。〔39海兵〕

【中央アジアに於ける イギリスロシアの角逐】

ロシアは、中央アジアにあるヒバ、ブハラ三汗國を保護國とし、コーカンド國を滅ぼし更にペルシアと結びて、アフガンに侵入す。イギリスは此ロシアの南下を以て、印度の保安を危くするものとなし、アフガン王を助けて異議を唱へ、將にロシアと戰はんとせしが、一八八七年に至り、一歩を讓り、兩國より委員を出して境界を協定し、平和の局を結べり。〔35海兵〕

【大院君】

姓は李、名は昰應、李太王の生父なり。李太王の朝鮮國王となるや、身政權を握り、盛に排外主義を行ひ、外人を目して夷狄となし、其通商を禁じ、耶蘇敎宣敎師を迫害し、遂にフランスと干戈を交へて之を退け、又米艦の襲擊をも擊退し、尙日本より修交を求むるを、頑として之に應ぜず。かゝる間に王漸く長じ、政を

親らするに及び、王后閔氏の一族政權を專にするを見心平ならず。遂に京城の鎭兵を煽動して閔族を擊ち、又我公使館を襲ふ。淸國丁汝昌等を遣はして、大院君を直隷に押送せしが、間もなく歸國するを得たり。後東學黨の起るや、大院君又入りて內外の政務を攝政せしかば、井上馨全權大使として朝鮮に赴き、之を罷めしめたり。明治三十二年歿す。〔40東高師〕

【朝鮮甲申(明年十七年)の變】

朝鮮には事大獨立の二大黨あり。互に相軋轢せしが、明治十七年獨立黨の首領金玉均等は、遂に發して事大黨を擊ち、朝鮮國王を擁して、

我公使の援助を請ひしに、淸兵は事大黨を助けて獨立黨を破り、我公使館を燒きしかば、我公使は兵を收めて歸國し、金玉均等亦遁れて我國に投ぜり。由て我國は使を朝鮮に派して、償金十三万圓を出さしめ、又伊藤博文を淸國に遣はして、天津條約を締はしめたり。〔41三高〕

【明治十八年の天津條約】

明治十七年、朝鮮甲申の變に關し、我國は淸廷とも交涉を開くべき必要あり。由て翌十八年伊藤博文を全權大使として、淸國に遣はし、淸國全權大臣李鴻章と天津に會し、條約を結はしめ、二國各朝鮮より兵を撤し、將來出兵の必要ある時は、互に相通知すべきことを約せり。之を天津條約と云ふ。〔36陸士、37早大、39海兵、40海機〕

【東學黨】

朝鮮にて西敎を排し、東學を興さんとする一派の、保守的學者の團體にして、明治廿七年全羅道古阜に擧兵し、政府を怨める者是に附和し、勢甚だ猖獗なり。當時韓廷之を討ちしも、平ぐる能はず。援を淸國に請ふ。我國亦居留民保護の爲兵を派し、遂に日淸戰爭となるに至れり。〔38專門〕

【平壤】

朝鮮平安道に在る都府なり。箕子の子孫遼東

より移り住せし王險は此地にして、爾來屢々其名の變更あり。文祿の役沈惟敬此に來り、小西行長に依りて和を請ふ。日淸戰役には我軍淸兵を此に破れり。〔41海兵〕

【丁汝昌】

淸國北洋水師提督。壯にして歐洲に遊び、海軍學を研究し、其國家防禦に必要なるを知り、歸國の後朝に說きて、水師を置かしめ、北洋提督となる。後日本に遊びしとありき。明治二十七年日淸兩國の戰始まるや、淸兵大に敗る。二十八年二月汝昌威海衞にあり、日本の艦隊に圍まれ、勢究まりて兵器軍艦を我國に納れて、降を乞い自らは毒を仰ぎて死せり。

【明治卅三年清國に於ける聯合軍組織の原因】〔33山高商〕

明治卅三年、山東省に義和團といふ匪徒起り、清廷の庇護を得、勢日に強く、三月天津及北京に亂入し、外人の居宅を燒き、五月北京天津間の鐵道を破壞せり。各國公使各其水兵を入京せしめ、以て僅に自ら護りしが、内外の交通全く絶え、各國公使館は重圍の間に陷り、匪徒の爲に空しく鏖殺せられんとする勢なりしかば、遂に聯合軍を組織して、救援に赴くこととなれり。〔34美術〕

【北清事變】

清廷が耶蘇教を公許せし以來、宣教師の來りて布教する者、支那人を侮りて專横不法の擧動多く、從て支那人一般に耶蘇教を厭惡せしが、日清戰爭後、歐洲各國の蠶食を被るに及びて、排外の氣焔益高く、明治卅三年遂に義和團といふ暴徒山東省に起り、西教撲滅、外人排斥を趣旨とす。朝廷の大官等之に應ずる者ありて、勢日に強く、遂に北京に入りて、列國の公使館を圍めり。是に於て日、露、英、米、獨、佛、墺、伊八國の兵連合して、太沽、天津を略し、北京に進み、公使館を救ひ、更に暴徒を平定せり。時に清帝西太后は、難を避けて西安府にあり。慶親王李鴻章等をして和を請はしむ。列國使臣等乃ち北京に會して善後策を講じ、各國は元兇の處罰と、四億五千万兩の償金とを、清國に約せしめ、事漸く平ぐことを得たり。〔40東高師、42各高等〕

【韓半島に於ける我國と露清との關係】

韓半島には、事大黨と獨立黨との二派ありて、一は清國に事へて國政を處理せんとし、一は我國に頼りて獨立の實を擧けんとす。兩派互に軋轢の結果甲申の亂となり、次で日清兩國の天津條約となり、更に日清戰爭となり、清國は全く朝鮮より手を引けり。是より我國は獨力朝鮮の誘掖に力を盡せしが、露國は巧に韓廷を籠絡して、我經營を妨げ、暴威を韓半島に振はんとせり。されど漸く韓國朝野の反對を招きしかば、明治卅一年我國と協約し、韓國の主權及獨立を確認し、韓國に於ける我商工業の發達を妨碍せざることを議定したりしが、明治卅六年頃に至り、北韓を略して、韓國の主權を侵害する如きことあり。此等より日露戰爭となりしが、ポーツマス條約により、露國をして韓國に對し我國の保護權を認めしめ、爾後露國は全く韓半島より退くに至れり。〔37海兵〕

【日清戰役後に於けるロシアの極東經營】

日清戰役後ロシアは、東清鐵道の布設權及旅

順口大連灣の租借權を得、更に朝鮮の內政に干渉し、我國の經營を妨げ、暴威を韓半島に振はんとし、朝鮮朝野の反對を招きければ、我國と協商し專ら滿洲の經營に着手し、北京の動亂に乘じて之を占領し、事平ぐの後も尙撤兵せずして、益其經營を進め、將に朝鮮の獨立をも侵害せんとする勢あり、遂に日露戰爭起るに至れり。〔38東高師〕

【ドイツの東洋政略】

ドイツは太平洋に注目し、一八八四年以來着々經略に從事し、ガイゼル・ウイルヘルムスランドビスマルク群島、マルシアル群島を得、又ソロモン、サモア兩群島一部を得て植民し、又宣敎師の山東省にて殺害せれしを口實とし、淸國に迫り、膠州灣を九十九年間借欵し、着々經營に從事せり。〔34美術〕

【印度の國情】

古名を天竺と云ひ、漢武帝の時には、身毒國と云ふ。シンド(信度)河水あるにより、波斯人之をヒンヅと訛り、希臘人によりてインドスと稱せられ、遂に此河以東の地を印度と呼ぶに至れり。天竺、身毒、信度印度等文字こそ異なれ、皆同音に近し。此地はアジア南部三大半島の中央に位し、三角形をなして南方に突出す。北ヒマラヤ山脈パミール高原によりて、西藏及ロシア領中央アジアと分れ、東に緬甸を限

る山脈により、支那及暹羅に隣り、東南はベンガル灣に臨み、南は印度洋に、西南はアラビア海に瀕し、西はアフガニスタン、ベルヂスタンに接す。面積約二十六万方里あり。〔42商船〕

西洋歷史

上古

【アッシリヤ滅亡後其屬領地內に興りし國名及位置】

カルデア　東南
メヂア　東
エジプト　西南
リヂア　西。〔36女高師〕

【フェニキア人の性質及其事業】

フェニキア人は甚だ進取の氣象に富み、伶悧活潑にして、夙に航海商業に達せしかば、其商船は地中海より遠く太西洋岸に通航し、其隊商はアラビア、メソポタミア邊に往來して貿易を營み、又所在商館を設置し、中には發達して、カルタゴの如き植民地になれるもあり。其通商によりて東方諸國の文明を、遠近に傳播せしのみならず、簡單なる音符文字を發明せしは、フェニキア人の大効績にして、現今の西洋文字は、其漸次變化せるものなり。〔34海機〕

【フェニキア人の通商せし地方】

フエニキア人は海上に於ては、地中海沿岸より、ジブラタル海峽を過ぎて、アフリカの西方なるカナリア、マデイラ諸島より、北方遠く今のイギリス及バルト海沿岸に到り、陸上に於ては、バビロニア、アッシリア、アラビア及アルメニアに往來して貿易を營めり。〔39外語〕

【リコルゴスの憲法】

前九世紀の後半、リコルゴスの制定したるものを云ふ。ドーリア人自衞の必要上、極端なる國家主義を行ひ、男子は皆之を兵とし、子生れて虛弱なれば之を山に棄て、其强健なるもののみを養育せしめ、七歲に及べば國家其敎育の任に當り、嚴酷なる規律に服し、身體を鍛錬し、兵舍の內に起臥し、一朝事あれば直に出陣せしめたり。質朴剛健は其最も尊ぶ所にて、浮華文弱は最も之を卑めり。政治は人民を三階級に分ち、ドーリアの人のみ參政權を有せり。上に二人の王ありしも、實權は年々選るゝ五人の監督官之を握り、元老院ありて之を輔け、又公民會ありて諮詢に與れり。〔36陸士〕

【ダリオス】

ペルシヤ王。國難を鎭定して王位に上る。英邁にして經世の略あり。先づインドを征し、小アジアを服し、前四九二年遠征軍を發し、ギリシヤを征せんとせしが、其軍隊海陸共に失敗に歸し、志を達せずして更に第二回の遠征を試み、漸くギリシアの地に渡ることを得しも、前四九〇年マラトンの野に大敗せり。後盛に軍備を整へ再擧を計りしも、病に罹りて歿せり。〔36東高師〕

【前四九〇年に起りし事件】

マラトンの大決戰あり。〔33一高〕

【テミストクレス】

アテネの政治家、且名將なり。其政敵アリスチデスの貶せらるゝに及び、漸く政權を得、ペルシアの侵入を防がんには、須く海上權を得ざるべからざる事を主張し、大に海軍を擴張し、前四八〇年ペルシア王クセルクセスの艦隊を、サラミス灣に粉碎し、偉功を奏せり。後事を以て國外に放逐せられ、ペルシアに奔りて死せり。〔41東高師、42東高師〕

【テルモピレーの戰爭】

前四八〇年頃、ペルシア王クセルクセス大軍を率ゐ、水陸並び進みてギリシアを侵入するや、スパルタ王レオニダス、スパルタ兵三百、同盟軍數千を以て、テルモピレーの關を守ること數日。敵兵間道より至り、スパルタの將士奮戰して悉く國難に殉せり。〔37外語〕

【サラミス】

ギリシアの山多き島嶼、アッチカの西南に當る。此島と大陸との間にある海峽は、前四八〇年ペルシア王クセルクセスの艦隊が、テミス

トクレスの率ゐるギリシアの艦隊の爲、粉碎せられたる古戰場なり。〔38陸士候〕

【前四八〇年に起りし事件】

テルモピレーの戰及サラミスの海戰なり。〔33一高〕

【ペリクレス】

アテネの大政治家なり。博學にして雄辯に、誠實にして私心なく、民權を重んじ公益を圖り、海軍を盛にし、實業を興しゝかば、アテネの民主政治大に振ひ、擧國之に悅服し、同盟國諸邦皆其命を仰ぎたり。又長壁を築て國防となし、パルテノン神殿を建て、アテネを飾り、其他アテネを改修する所多く、市の外觀一變す。尙文學美術を奬勵せしかば、ギリシア文物の盛此時に極まれり、稱してペリクレス時代といふ。然るにペロポネソス戰役始まり、アテネ城中疫病起り、ペリクレス亦之に斃れたり。〔35美術、37東高商、40女高師、42陸士候〕

【エパミノンダス】

テーベの名士なり。前三七九年政友等と謀り、自ら將となり、スパルタ軍を國外に放逐し、次て三七一年レウクトラにスパルタの軍を破り、後前三六二年マンチネアに再スパルタ軍を破りしが、此役に傷きて死す。〔35各高等〕

【レウクトラ】

ギリシア、ベオチアの一村、テーベの南に位す。前三七一年テーベの將エパミノンダス、此地に於てスパルタの軍を粉碎し、是よりテーベ、スパルタに代り、ギリシアの覇權を握れり。〔38陸士〕

【デモステネス】

アテネの雄辯家なり。マケドニア王フイリポスがギリシア併呑の野心あるを看破して、極力之に反對し、有名なるフイリポス攻擊の大演說をなし、以てギリシヤの同盟を計り、前三三八年之とケーロネアに戰ひしも大敗し、ギリシアは遂にフイリポスの掌下に歸せり。アレクサンドル大王の死後、ギリシヤ同盟の爲力を盡し、暗殺を恐れて自殺す。〔34各高等、43長高商〕

【アレクサンドル大王】

マケドニア王フイリポの子、前三三六年二十にして即位す。先づギリシア反亂を平げ、前三三四年ペルシア遠征を企て、精兵三万五千を率ゐて、ヘレスポントの海峽を渡り、グラニコス、イソスにペルシア軍を破り、シリア、エジプトを取り、アレクサンドリア府を建設し、轉じてペルシアに入り、ダリオス二世をアルベラに破り、ペルシア全土を征服し、東進してインドを侵し、ピファシス河畔に達せしに、將士前進を肯せず。大王已むを得ず海

陸兩道よりバビロンに凱旋せり。是に於てペルシアの故領を、マケドニアと合併し、東西兩洋の文化を融和して、大帝國を經營せんとし、先ず人種の統一を圖り、自らダリオスの女を娶り、部下の將士をしてアジアの婦女を娶らせしめ、又鋭意ギリシアの文化を東方に輸入し、交通商業の便を開き、東西領土の人種文化を混一せんと圖りしが、三二三年經營未だ成らずして病を獲、三十三歳を以てバビロンに歿せり。〔33海兵〕

【アレキサンドル大王の印度侵入の皐紀】

皐紀三三四年。〔33六高〕

【アレクサンドル大王遠征のヨーロッパ、アジア文明上に於ける影響】

アレクサンドル大王は、東征後スーサに歸り、ペルシアの故領をマケドニア、ギリシアと合併し、東西の文化を融化し、人種の統一を圖り、又インド河よりエウフラト河に至る通商の便を開き、ギリシヤ、エジプト、シリアの諸宗教を混融し、ギリシヤ文學とペルシヤ文學との融化をなし、工藝と商業との發達をなせり。〔33美術〕

【イプソス】

小アジアの西部フリキアにある一古村。前三〇一年アレクサンドル大王の歿後、其諸將互に權勢を爭ひて決戰せし處なり。〔36東高師〕

【ギリシア文物の發達】

ギリシャ人は、東方諸國の文物を融化し、更に自家獨特の發達をなし、以てヨーロッパ現今文明の基礎をなせり。蓋し氣候風土の他國に勝れて美しく、言語の他國に超越せる優美の點を有し、又オリンピア等の競技ありて、盛に奬勵を與へしと等より、文學、史學、哲學、美術等各方面に燦爛たる文華を開かしめたり。〔38海機〕

【ホメロス】

ギリシヤの大詩人。イリアッド及オデゼーの著者なり。其傳記諸說ありて詳ならず。其存在さへ疑る者あるも、有名なる大敍情詩人として後人の推重する所なり。〔33一高〕

【ソクラテス】

アテネの人、前四六九年に生る。古今に稀なる大哲學者、大道德家にて、常に自ら節儉を守り、粗食粗衣に安んじ、諄々として人を敎へ、報酬を貪らず。當時ギリシアに行はれたる詭辯家を極力排斥し、眞理を悟らしむるに勉めたり。後神を非議すとの罪にて獄に下され、三十日以内に毒藥を服すべき宣告を與へらる。門弟中或は脱獄を勸むる者ありしが、之を耳にせず、期日に至り諸弟子に說敎して、毒杯

身に及ふに至て死せり。年七十。〔34東高師〕

【フイヂアス】

アテネの有名なる彫刻家にして、ペリクレス時代に於ける絕世の名工として知らる。其作の大なるものは、パルテノンの神像オリンピアの神像、ゼウスの神像等なりとす。前四三〇年歿す。〔33東高師〕

【ローマ王政の變遷】

ローマは建國以來、選擧せる王を戴き、元老院之を輔佐し、大事は之を貴族會に諮詢し、然る後決せり。庶民は一切參政權なかりしが、後其數漸く增加し、王に請ふて兵員會に出席し、議決權を得るに及び、貴族等之を悅ばず。遂に王を逐ふて共和政治を立てたり。時に前五〇九年なり。〔41商船〕

【ヂクタトール】

ローマ共和政治時代に、國難に際會したるときは、六ケ月を限り絕對權を與へたる執政官なり。此期間は全く何人の制限を蒙ることなくして、其判斷により國政を執ることを得。〔41一高〕

【護民官】

ローマの共和政時代に、庶民の權利を保護する爲に、庶民中より選擧せられたる官吏なり。蓋し當時貴族橫暴にて、庶民不平に堪へず、前四九二年庶民は聖山に據り、ローマ以外に自由市を建てんとせしかば、貴族驚き此官を設け、行政を監督し、立法を制止する權を與へ、以て庶民に不利なることあれば、保護せしめしなり。〔33六高〕

【カルタゴ】

アフリカの北なる半島にある古代の都市チュニスの近傍にして、前八五〇年頃フェニキア人の建てたる所なり。初は貿易の中心なりしが、後ローマと對抗し、ハンニバルの下にありては、一度ローマを威嚇したることありしも、第三ポエニ戰爭に於て、スキピオ・エミリアヌスの爲破滅せらる。〔39長高商〕

【第一ポエニ戰役】

アフリカ北岸のカルタゴは、地中海の商權を壟斷して、富天下に比なく、强大の海軍を擁して、威をシチリア、サルヂニア、コルシカ等の諸島に振ひ、新興のローマと勢兩立せず、遂に前二六四年シチリア島メシナの亂より、延て兩國の大戰爭となれり。當時ローマは陸軍國なりしも、急に戰艦を造り、前二六〇年より、數回カルタゴ艦隊を破り、前二四一年エカテ群島附近の海戰に、最後の大捷を得、カルタゴをして巨額の償金を拂ひ、又シチリア島を割きて和せしめたり。〔40陸士〕

【アルキメデス】

古代の數學者なり。前二七八年シチリアのシ

ラクサに生れ、數學問題の研究に忙はしく、前二一二年ローマ人の爲此都の陷れられしを知らずして、遂に殺されたり。〔42長高商〕

【第二ポエニ戰役の原因幷に結果】

第一ポエニ戰役後カルタゴは、銳意恢復を圖り、ハミルカル・バルカスをイスパニアに遣して、地を拓き兵を養ひ、徐々ローマ侵入の準備をなさしめしが、其子ハンニバルの代に至り、國富兵强く、二一九年ローマの同盟市サグンツムを陷れしかば、ローマ、カルタゴの間の和復破れ、第二ポエニ戰役起れり。かくてカルタゴ戰敗の結果、遂に和を請ひ、イスパニアをローマに割き、巨額の償金を拂ひ、軍艦を讓り、ローマの許可なくして、外國と開戰せざるとを約せり。〔40東高師〕

【ハンニバル】

カルタゴの名將、父をハミルカルと云ふ。幼より父に從ひ、イスパニアに至り、地を拓き兵を養ひ、前二一九年ローマの同盟市サグンツムを陷れ、遂に第二ポエニ戰役を惹起せしめたり。初は破竹の勢を以てアルプ山を越へ、イタリアに入り、前二一六年カンネーに於て、大にローマ軍を破り、進てカプアに滯留せしが、兵卒戰に倦みて、其兩年より形勢非運に向ひ、カルタゴに召還せられ、前二〇二年スキピオとザマに戰ひて破れ、シリアに逃れて國王アンチオコスに寄り、更にビシニア王プルシアスの下に逃れしが、降服を迫られ、自ら毒を呑んで死せり。〔35女高師、37陸士、40海機、42山高商〕

【カンネー】

イタリア、アプリアの古市。前二一六年カルタゴの將ハンニバルが、ローマの軍を破りしを以て有名なり。〔36東高商〕

【ザマ】

古代ヌミヂアの城市、カルタゴの西南百哩に在り。此地に於てカルタゴの將ハンニバルは、ローマの將スキピオ・アフリカヌスと、前二〇二年合戰して破られ、第二ポエニ戰爭結局を告げ、カルタゴの運命殆ど盡くるに至れり。〔40女高師、42東高師〕

【チベリウス・クラックス】

ローマの護民官にして改革者なり。當時貧富の懸隔甚しきを以て、自ら貧民の味方となり、國有土地の平均分配を主張し、以て其窮境を救はんとせしも、貴族に妨げられて成らず。前一三八年遂に殺さる。〔33東高師〕

【スルラ】

ローマの將軍にして、且政治家なり。諸戰に大功ありしが、前八八年小アジアのポントス叛くに及び、マリウスと其征討總督を爭ひて之に勝ち、先づギリシアを略し、ポントスを征

し、アテネを居り、同八三年イタリアに歸り、更にマリウスの殘黨を屠り、自ら終身總督（ヂクタトル）となりしが、在職僅にして退隱し、暫くにして卒す。〔38東高師〕

【キケロ】

ローマの雄辯家、政治家、且文章家なり。ローマ及アテネに於て政治教育を受け、卅にして大雄辯家となる。コンスル在職中、カチリヌスの陰謀を極力暴露し、大事なからしめ、第一三頭政治成るや、國外に放逐せられ、後還りしも、第二三頭政治の時に至り殺さる。〔35各高等〕

【ポンペイウス】

ローマの將軍にして政治家。マリウス死後スルラと同盟し、アフリカ及ミトラダテス戰爭に於て名を擧げ、ローマに凱旋せしが、元老院其偉勳を妬み、其功を賞せざりしかば、ケーザル、クラッススと共に元老院に反抗し、第一三頭政治を作れり。然るに暫くにしてケーザルと競爭し、ファルサルスに大敗し、後エジプトに逃れしが、同國王プトレマイオス十二世の刺殺する所となる。〔35東高師〕

【三頭政治】

三人の宜吏一樣に絕對權力を以て、ローマ國を支配したるを云ふ。第一回は前六〇年ユリウス・ケーザル、ポンペイウス、及クラッススの間に行はれ、第二回は前四三年アントニウス、レピヅス、オクタヴィアヌスの間に行はれたり。〔37東高師、41海兵〕

【第一回頭政治成立の由來】

前六一年ポンペイウス小アジアを平定し、ローマに凱旋するや、元老院は其偉勳を妬み、其功を賞せず。又其意見をも容れざりしかば、ポンペイウス心樂まず、斷然意を決してケーザルと結托し、更に富豪クラッススを誘ひ、玆に三頭政治を作るに至れり。〔41陸士〕

【ケーザル】

ローマの民黨の首領にして才略あり。軍事に長じ、政治に巧に、又學問に通じ、ローマ第一の人物なり。前六〇年ポンペイウス、クラッススと結びて第一三頭政治を作り、ガリアの太守として其蠻族を夷げ、ゲルマニを討ち、ブリタニアの一部をも征服せり。ポンペイウス其威名を嫉み、元老院と結び其職を解かんとす。ケーザル意を決し、前四九年兵を率ひて歸り、ポンペイウスのギリシアに逃るゝを追ひ、ファルサルスに之を破り、更にアフリカ、イスパニア等を討ち、前四五年ローマに凱旋す。終身のヂクタートルとなり、イムペラトルの稱號を得、文武の大權を握り、鋭意弊政を改め、貧民を救ひ、軍隊を抑へ、植民を奬め、曆法を改むる等、治績著しかりしが、

其榮進を嫉む輩カシウス、ブルッス等の爲、前四四年議事堂に刺殺せらる。時に年五十六。〔36海兵〕

【アントニウス】

ケーザルの親戚なるが、ポンペイウス派に追はれ、ガリアに走りしが、ケーザルと共にローマに還り、次てコンザルとなる。ケーザル遭害後、其靈柩前に於て、悲憤の弔辭を述べて市民を激し、兇行者をしてローマを去らしむ。かくて獨りローマの政權を得、後オクタビアヌス及レピッスと共に、第二回三頭政治を作り、前四二年フイリッピにブルッス、カシウスを誅し、次で帝國を三分し、其東部を

領せしが、其後パルチアを征して敗れ、エジフトに留りて其女王クレオパトラに迷ひ、其妻オクタヴイアヌスの妹を離婚せし爲オクタヴイアヌスの爲、前三一年アクチウムの海戰に破られ、エジフトに逃れ、ローマ軍の追擊に遇ひ、自刄して歿す。〔31陸士〕

【アクチウム】

ギリシアの西海岸アカルナニアの岬なり。前三一年オクタヴイアヌスとアントニウスとの海戰を以て有名なり。〔33二高〕

【アグリソパ】

ローマの將軍、前六三年に生るアクタウムの戰に、アウグスッスの艦隊を指揮して功あり。

帝の宰相として施設する所多く、ローマの水道ピンテオンも彼が計畫せる所なり。前一二年歿す。〔43東高師〕

【ローマの共和政治時代より帝政時代に遷りし事情】

ケーザルの養嗣子オクタヴイアヌスは、アントニウスを破りて天下を統一し、大權悉く其手に歸す。前二七年元老院及民會よりアウグスッスの尊號を上る。尊大の義なり。オクタヴイアヌスは深くケーザルの失敗に鑑み、勉めて共和政治の形式をなし、已は唯ケーザルと稱して、ローマの一官吏たる外觀を裝へり。かくて是より其實全く帝政となれり。〔43海兵〕

【アウグスッス帝時代のローマ帝國の版圖】

當時ローマの版圖は、東はエウフラート河より、西は大西洋に至り、北はドナウ、ライン兩河、及黑海より、南はアフリカに及べり。〔31海橋、37神高商〕

【アウグスッス治世中第一の事件】

ローマ帝政の建立。〔31海機〕

【基督誕生の年代】

前四年。〔39海兵〕

【ヂオクレチアヌス】

ローマ皇帝、二八四年より三〇五年まで統治

せり。鋭意治を圖り、大改革を行ひ、君主の權力を確定す。又帝國の版圖を東西に二分し、東部は親ら之を取り、都をニコメヂアに置き、西部はマキシミアヌスに與へ、ミラノに都せしめ、共にアウグスッスと稱せり。後東西の兩部を更に二分し、東はガレッウスに、西はコンスタンチウスに與へ、各ケーザルと稱して、其分區を統治せしめたり。是に於てローマ帝國は自ら四部に分れ、帝自ら其總理となりて、帝國共通事項を合議せり。帝政末路に於ける賢帝の一人なり。〔34東高師〕

【コンスタンチヌス大帝】

ローマ皇帝ヂオクレチアヌス殁し、帝位の爭起り、國內大に亂れたるを、三二三年コンスタンチヌス再之を統一して、皇帝の位に上り、都をビザンチウムに遷し、之をコンスタンチノプルと稱す。帝は又國民のキリスト教を奉ずる者多きを觀て、之を公許し、國教を定め、自ら其元首となれり。〔43東高師〕

【昔のビザンチオンの今の位置】

コンスタンチノプル。〔41長高商〕

【ローマ國政體の沿革】

ローマ國は最初王政なりしが、前五〇九年共和政となり、漸次其末路となりて、前二七年帝政となれり。〔33海機〕

【ローマの屬地統治】

共和政治時代には、各プロコンサル（總督）を置き、之を統治せしめ、其下にプブリカニ（收税官）を置き、租税を徵收せしめしが、帝政時代にはプロコンサルの代り、代官を派して管理せしめたり。其後コンスタチヌス大帝の時、全國を四道、十三區百十六州に區分し、各道に總督を置き、管內の司法、警察及財政の事務を處理せしめ、各區に區長、各州に知事を置き、各自其管內の民事を司らしめ、各地に駐在せる兵士と相協力して、其平和を維持せしめたり。〔33東高師〕

中古

【シャロン戰爭】

西ローマの將エーチウス、西ゴート、フランク、ブルグンド等の諸族と力を合せ、フン族長アッチラをシャロンのカタラウヌム原に防ぎて、大に之を破る。アッチラ由て轉じてイタリアに入れり。〔37外語〕

【オドワケル】

ゲルマニ傭兵の長にして、四七六年ローマ帝を廢して自立し、イタリア王と稱す。西ローマ帝國玆に滅ぶ。然るに東ゴート王テオドリクの爲侵入せられ、四九三年殺されたり。〔34各高等〕

【西ローマ帝國の末路】

西ローマ帝國は、アッチラの掠奪を免れしが、

ワンダル王ガイゼリクに荒され、國威愈衰へ、政治の實權は、ゲルマニ傭兵に掌握せられたり。四七六年其長オドワケル遂に帝を廢して自立し、イタリア王と稱し、西ローマ帝國玆に滅びたり。〔34美術〕

【エスチニアヌス】

東ローマ皇帝、五二七年即位し、鋭意治を圖り、ローマ法典を編纂し、セントソフイア會堂を建て、蠶卵を支那より輸入し、又城壁を築きて國境の防備を嚴にせり。次で名將ベリサリウスに命じ、東伐西征せしめ、東方ペルシアと和し、西方ワンダル王國を滅して、アフリカを取り、東ゴート王國を平げて、イタ

リアを奪ひ、西ゴート王國を侵して、イスパニアの東南部を略し、東ローマ帝國の威をして、復振興せしめたり。〔33東高師、33六高、43各高等〕

【羅馬法典】

東ローマ皇帝ユスチニアヌスが、トリボニアヌス以下十六名の法學者に命じて、ローマ歴代の勅令法律及判例等を蒐集類別して、編纂せしめしものにして、五三三年之を頒行す。是後世法典の模範にして、イギリスを除き、ヨーロッパ諸國は今猶之に準據せり。〔35陸士〕

【回教の起源】

回教はアラビア人ムハメッドの唱道せし所なり。ムハメッドは五七一年メッカに生れ、長じて隊商となり、シリア地方に行商せしが、後思を宗教に凝し、キリスト、ユダヤ兩教を參酌して、回教を唱へ出し、宇宙の主宰者アラーの外に神なしと說き、自ら其神の豫言者と稱せり。かくてメッカの市民の爲迫害せられ、六二二年難を北方メヂナに避けしが、爾後回教は大に擴まるに至れり。〔35陸士〕

【コーラン】

ムハメット教の聖典にして、ムハメッドの死後其弟子等が其教を集めたるものなり。〔39各高等〕

【ヘヂラ】

マホメッド教の紀元にして、マホメッドが異端と稱せられて、メッカよりメヂナに至りたる年なり。耶蘇紀元六二二年に相當す。〔35千醫專、38專門〕

【六二二年に起りし事件】

ムハメッド、メッカよりメヂナに出奔す。〔33一高〕

【オーマル】

アブベクルの後繼者にして、第二のハリフアなり。六三四年より六四四年に至るまで職に在り。シリア、メソポタミアを征服し、ペルシアを討ち、ササン朝を滅ぼし、又將を遣りてエジプトを征服せり。〔39東高師〕

【ボアチエーの戰爭】

サラセン人は、アフリカよりジブラルタル海峽を越へ、イスパニアに渡り、西ゴート王國を滅ほし、七三二年ガリアに侵入し、フランク國の宮宰カロロ・マルテルの爲、ツールに於て大に擊破せらる。戰はツールとボアチエーとの間に行はれたれば、一にボアチエーの戰ともいふ。〔37外語〕

【羅馬法王】

ローマ舊敎の主權者なり。初キリスト敎の漸く廣まるに從ひ、ローマ帝國内に五本山起りしが、ローマの本山は歷代俊傑の大長老を出し、特にグレゴリオ一世は布敎に功勞ありしかば、ローマ大長老はギリシア皇帝より獨立し、漸次政敎の二權を握り、法王（Pappas）（義父）として仰がるゝに至り、十一世紀頃には其權力非常なりしが、今は總ての領土權を削奪せられ、僅に宗敎上の主權を握るのみ。〔41五高〕

【シアレマンの即位】

シアレマンは即ガロロ大帝の事にして、大帝は法王レオ三世と結び、其領地を擴張し、キリスト敎の弘布に盡力せしかば、法王之を德とし、八〇〇年キリスト降誕日に金冠を捧げたり。是に於て大帝はインペラトル・ローマノルムと稱す、ローマ人の皇帝といふ義なり。西ローマ帝國滅亡後三百余年にして、再びカロロの興す所となり、東西に復ローマ皇帝あり。〔35陸士〕

【カロロ大帝】

カロリンガ朝の始祖ピピンの子、七六八年フランク王位に即く。大志あり。ドイツを定めランゴバルドを滅し、イスパニアを服し、スラブ人を討ち、八〇〇年法王レオ三世より西ローマ帝國の帝冠を受け、都をアーヘンに奠む。帝は國内を國郡及敎會領に分ち、實業を奬勵し、學校を建て、專ら國内の統一を圖れり。〔35陸士、37東高師、40海兵〕

【八〇〇年に起りし事件】

西ローマ帝國の復興。カロロ大帝々位に即く。〔33一高〕

【ベルダン條約】

カロロ大帝歿後諸子互に其位を爭ひ、遂に八四三年ベルダン條約を結び、帝國を三分するに至れり。即ち長子ロタールはライン河域及イタリアを取り、帝號を保有し、次子ルイスは東部フランクを、末子カロロは西部フランクを取れり。〔36女高師、41四高〕

【ドイツ及フランスの起源】

八四三年ベルダン協約により、カロロ大帝の帝國三分せしが、八七〇年メルセン條約を以て、東西兩フランク王國、其中間の地を割取せり。

西フランクは九八七年を以てカロリンガ家絕え、フランス侯フーゴー・カペー之に代りて王位に登り、パリに奠都し、是より後のフランス國は起れり。東フランクも亦九一一年を以てカロリンガ家斷絕し、其後國王選擧の制となれり。東フランクは即ち後のドイツなり。〔42海機〕

【ノルマン（北人）の事業】

ノルマンはスカンジナビア半島及デンマルクに住し、性質勇敢にして最も航海に長じ、九世紀頃より盛に諸國の沿岸を侵略せり。中にも西フランク其害最も甚しかりしかば、其王カロロ、ノルマンの酋長ロロに、セーヌ河下流一帶の地を與へて、ノルマンヂー公となし、以て其鋭鋒を避けたり。此時デンマルクのノルマンは、英國に侵寇し、甚だ猖獗なりしが、其後英國王エドワルドの歿するや、ノルマンヂー公ウイルレムは繼承權ありと稱し、大擧來侵し、ヘスチングスの戰に勝ち、遂に王位に上れり。又ノルマンヂーのノルマン武士は地中海に入り、シチリアよりサラセンを逐ひ、ナポリ王國を建て、其勢一時盛なりき。其他ノルマンの一派は、東の方ロシアを侵略し、ノブゴロドを建設し、西の方にはアイスランドよりグリーンランドを發見し、更に北アメリカ東岸の地にまで至れり。〔43東高師〕

【ノルマン人のイギリス征服】

イングランド國王エドワルド一〇六六年嗣子なくして歿するや、ノルマンヂー公ウイルレム繼承權ありと稱し、大擧來侵し、ヘースチングスの戰に勝ち、遂に王位に登り、漸次全國を平定したり。之を「ノルマン人のイングランド征服」と云ふ。是よりノルマンの國風は次第にアングロ・サクソンの國風と融和し、特異の言語風俗を成し、漸次發展して現代のイギリス國民となれり。〔35陸士〕

【古來イギリスへの入寇】

九世紀頃より、ノルマンの一派デーン人イギリスの海岸を侵略し、遂に國王を放逐して之に代り、一〇一六年より廿六年間支配せしことあり。又一〇六六年には、ノルマンヂー公ウイルレム大擧來侵して、遂にイギリス王位に登れり。其後一五八八年イスパニアより無敵艦隊を差向けたれど、却て擊破せられたり。〔37海機〕

【ロシア建國の次第】

スウエーデンより東方に移れるノルマンの一部は、ロシアに入り、其酋長ルーリクは、八六二年ノブゴロド城を建て、附近のスラブ族を征服して、ルス王國を建てゝ、ロシアの基を創め、其一部は南下してキエフに據る。ルーリクの子イゴルに至り、スラブ族の大半を

統べて、キエフに都し、其版圖頗る廣大となれり。〔39陸士〕

【オットー大帝】

ドイツ王ヘンリ一世の子なり。九三六年王位に即き、先づ諸侯伯の領土を削り、親族を要地に封じて王權の基礎を固め、次で兵を出してフランスを侵し、ボヘミア、ポーランドを降し、デンマルク人及マジアール人を服し、又イタリアに入り、ローマ法王を助けて其敵を降せり。法王其功を嘉し、九六二年オットーを召して、神聖ローマ皇帝の冠を捧げ、兼てイタリア王たらしめたり。是に於てドイツの國威大に揚り、世帝の功業を仰きて、オットー大帝と稱せり。〔33一高、41東高師〕

【グレゴリオ七世】

一〇七三年法王となる。雄略あり、大に法皇權の擴張を圖り、先づ敎會內部の弊風を破り、次で帝王の僧官任命權を奪へり。ドイツ國王ヘンリー四世法王の干涉を憤り、其令を奉ぜざりしかば、法王大に怒り、王を破門し、ドイツ臣民の國王に對する服從の義務を解除せり。王乃ち之に酬ゐんが爲め、法皇の廢位を宣言せしも、國內の諸侯之を機として離畔する者多かりしかば、王遂に窮し、一〇七七年自らイタリアに往き法王に謝罪し、破門を解かれたり。其後王は無念に堪へず、兵を卒ゐてイタリアに入る。法皇逃れてサレルノに至り、一〇八五年遂に憤死せり。〔41三高〕

【ヘンリ四世とローマ法王との衝突】

ドイツ國王ヘンリ四世は、ローマ法王グレゴリオ七世の號令を輕んじ、僧官任命の權を握りしかば、法王大に怒り、王を破門しドイツ臣民の國王に對する服從の義務を解除せり。王由て之に酬ゐん爲、法王の廢位を宣言せしも、國內の諸侯之を機として離畔する者多かりしかば、王遂に窮し、一〇七七年自ら法王をイタリアのカノサ城に訪ふて哀を請ひ、露頭洗足雪中に立つこと三日にして、漸く破門を赦されたり。是より法王の權威益揚りしが、王は遂に法王に歸するを欲せず、次で兵を率ゐてイタリアに入り、法王をローマ外に放逐せり。〔43陸士〕

【十二及十三世紀に於けるローマ法王の威權】

ローマ法王の威權は、既に十一世紀より大となり、遂に宗敎上の最上權に滿足せず、更に政治上の最高權を得て、帝王に號令せんと欲するに至り、法王グレゴリオ七世が、神聖ローマ皇帝ヘンリ四世を謝罪せしめし如きは、益法王の威權を揚らしめたり。其後ドイツ、イタリアに法王黨皇帝黨對立して、抗爭已まざりしが、法王インノケント三世の時には、既

に大陸の帝王を左右し、又イギリス王ジョアンをも屈服したり。法王の威權此頃を最盛とす。此時に當りローマ法王の唱道により、十字軍起り、其初は法王の權力を伸張する機關にも用ひられ、一時其權力旺盛なりしも、十三世紀末十字軍終るに及び、之をして衰微せしめたり。（43東高師）

【封建制度】

ゲルマニのローマ帝國を蹂躪するや、其首領はローマ從來の國有地を收めて、自ら之を領し、自余の土地は其臣屬に分與せしが、後年に至り、首領等自己の領地を割き、封土として其臣下に與へ、以て服從の義務を負はしむる風を生じ、殊にフランク王國に於て、カロロマルテルの時より盛に行はるゝに至れり。是實に封建制度にして、其後數百年間西ヨーロッパ各國に行はれ、國王のみならず、列侯僧侶都市も臣下を封じて、自衛を圖るに至れり。（41東高師）

【封建制度の起源及其衰微せし原因】

フランク王の宮宰カロロ・マルテルが、サラセンの侵寇を防がん爲、王領及寺領を割きて封土となし、之を部下に分與し、平素軍馬を養ひ、馬術を練り、有事の日王に從ひて忠戰せしめたる、是封建制度の起源なり。然るに十字軍により幾多の侯伯武士、或は其の産を失ひ、或は戰歿したる爲、封建制度は大打擊を受け、遂に衰微するに至れり。（34陸士）

【Vassa】（從臣）

中世封建制度の行はるゝ時、貧者は地方の豪族に賴り、其土地を借り、其眷養を仰ぎ、事ある時は其主人に從ひて出陣して、進退指揮を奉し、以て平生の恩顧に酬いたり。之を從臣といふ。此風漸く盛に行はれ、王も亦若干の從臣を畜へて其護衞となし、終に主從の關係は父より子に傳ふるに至れり。（40神高商）

【十字軍】

ギリシア帝國勢振はず、トルコ人の侵略に苦み、之を擊退せん爲に、援をローマ法王に求めしと、イエルサレムのキリスト墳墓に參詣する者が、大にトルコ人に迫害せられしとにより、一〇九五法王ウルバノ二世が貴族僧侶をクレルモンに會し、聖地恢復の師を起すべきを宣して、企てられたる戰爭にして、前後數回の遠征を見るに至れり。（第一）一〇九五年より一〇九九年イエルサレムの攻陷に終る。（第二）ドイツ、フランスの帝王指揮の下に、一一四六年企てられ、軍敗れ一一八七年イエルサレム失へり。（第三）一一八八年ドイツ帝フレデリキ一世がフランス、イギリス兩王と起せしも不成功に終れり。（第四）一一九八年

に始まり、ギリシア人を攻擊し、一二〇三年コンスタンチノプルを陷る。(第五)一二一六年ドイツ帝フレデリキ二世イエルサレムを回復せしが、間もなく取られたり。(第六)一二四八年フランス王ルイス九世企てしも、ニール河口に擒となり、賠償金を出して許さる。(第七)一二七〇年ルイス九世の再擧なりしも、失敗せり。かくて一二九一年アッカ陷り、キリスト教徒全くアジアの根據地を失ひて、十字軍終る。〔31海機、35美術、40女高師、48海兵43海經〕

【十字軍の影響】

十字軍は大影響を西ヨーロッパに及せり。幾

多の侯伯武士、或は其產を失ひ、或は戰歿したる爲、封建制度は大打擊を受け、是によりて王權の振興を助け、イタリア、ドイツの自由市府の勃興を促し、ハンサ諸市同盟の如きは、實に大勢力となり、バルト海の商權を獨占して、王侯に對抗したり。ベネチア、ジェノバを中心とせる地中海商業亦盛に起り、東方の學問及農工商等傳來して、人智亦著しく發展したり。〔34東高師、35美術〕

【ウルバノ二世】

ローマ法王、一〇九五年貴族僧侶をクレルモンに會し、イエルサレム聖地回復の師を起すべきことを宣し、第一十字軍を起せし人なり。

〔33一高〕

【フイリツポ二世】

フランス王アウグストルイ七世の子にして、一一八〇年即位す。第三十字軍に加入し、イギリス王リチャードと共に功を爭ひ、其遠征後歸國してイギリスと戰ひ、諸處に勝利を占めたり。晩年專ら國內の改革パリ市の改良とに從事し、一二二三年卒す。〔42外語〕

【エンリコ・ダンドロ】

ベネチアの大統領にして、第四十字軍の時兵の輸送の求に應じ、同軍を利してダルマチアのザラを擊ち、遂に之を陷れ、又一二〇四年コンスタンチノプルを略し、ラチン帝國を建

つ。一二〇五年卒す。〔43神高商〕

【フレデリキ二世】

ドイツ皇帝、同一世の孫。オットー四世を退け、一二一五年即位す。即位后イタリアに於ける主權の樹立に力め、學問技藝を奬勵し、ナポリに大學を興し、一二二八年第五十字軍を率ゐ、イエルサレムを略して其王位に上り、晩年法王及ロムバルヂアと爭へり。〔36東高師、37東高商〕

【イエルサレム】

アジアトルコの地中海に瀕するパレスチナ地方に在る世界最古の都府の一なり。イスラエルの王ダビードが都を此地に奠むるや、かく

命名せしものにして、後盛衰あり。元來此の都府はユダヤ教及キリスト教の聖地にして、殊にキリストの墳墓の地なれば、ヨーロッパ諸國の巡禮者陸續絕ゑず。然にトルコ人の同地を占領するや、是等を虐待せしかば、ヨーロッパ人等の怒を招き、玆に十字軍を誘起し、前後十回の遠征軍を見たるに至りしが、終に永く此地を恢復する能はずして止む。都府は此戰亂に罹りて大に破壞せられたり。〔41海兵〕

【ハンザ同盟】

中世紀に於て西北ゲルマニの都市が、バルト海の海賊を防ぎ、近隣武士の橫暴を抑へ、以て商業上の障碍を除去せん爲に、結びたる同盟をいふ。最盛なりし時は、十四世紀の後半及十五世紀の前半にして、六十四の都市を含みしが、三十年戰爭の時同盟解けて、僅に六市を殘すのみとなり、遂にハンブルク、ルーベク及ブレメンの三市に限らるゝに至れり。〔24東高師、38神高商、40外語、42外語〕

【中世紀間ベネチア（ヴエニス）の隆盛に赴きたる理由】

十字軍の爲、新しき需用が西ヨーロッパ人の間に生じ、商業上の交通頻繁となり、其結果商業振興し、イタリアの都市之に從ひ、大に發達せり。ベネチア亦其一にして、西ヨーロッパの

全權を握れり。〔34外語〕

【マグナ・カルタ】

大憲章。イギリスの貴族僧侶等、同國王ジオアンに迫り、舊來の習慣古例を成文とし、之に署名せしめしものなり。實に一二一五年六月十五日なり。〔37東高師、41四高、43神高商〕

【一二一五年に起りし事件】

イギリス王ジオアン大憲章に調印せり。〔33一高〕

【百年戰爭】

イギリス、フランス間の戰爭、一三三七年より一四五七年迄、凡そ百年間繼續したるを以て此名あり。初フランスのカペー朝は一三二八年絕え、一族バロア家のフイリポ六世即位せしが、イングランド王エドワルド三世フランス王カロロ四世の姪なるを以て、フランス王位相續の權ありと主張し、フイリポに對抗して兵を擧げ、一三三七年フランスに侵入せり。是よりイングランド軍はクレシー、ポアクエー、アゼンクール等の戰に大に敵軍を破り、フランスの國運甚だ危かりしが、此時ジアンヌ・ダルといへる一少女、身を挺してオルレアンの圍を解きしより、士氣大に振ひ、漸次イングランド軍を國外に追ひ、其占領地を回復し、戰爭玆に終を告げり。〔36陸士〕

【クレシー】

フランスパリの北にある一村落。百年戰爭の初期、一三四六年イギリス王エドワード三世フランスの大軍を此に破れり。〔35各高等〕

【アピニオン】

フランスの一州ボークリユースの首府。古名をアベニオと云ふ。ローヌ河の左岸にあり。一三〇九年三月より一三七六年九月まで、ローマ法王の定住地となれり。〔33六高〕

【アンゴラの戰】

オスマンリ・トルコのバチシッド一世は、將にコンスタンチノプルを陷れんとする勢ありしかば、ギリシア皇帝は急を訴へて、援をチムルに求めたり。チムル之に應じ、一四〇二年バヂアシッドをアンゴラに擊破し、之を擒にせり。是に於てトルコの勢爲に挫け、ギリシア帝國一時滅亡を免れたり。〔35陸士〕

【東ローマ帝國の滅亡】

オスマンリトルコはモンゴルに逐はれて、小アジアに移り、バヂアシット一世の時、將にコンスタンチノプルに向はんとせしかば、ギリシア皇帝は急をアジアのチムル帝國に訴へ、援を求め一時ギリシア帝國の滅亡を免れしが、チムル帝國瓦解するに及び、トルコ再興し、ムラッド二世を經てムハメド二世に至り、遂に大軍を以てコンスタンチノプルを圍み、五十三日にして之れを陷れ、ギリシア帝國玆に滅びたり。時に一四五三年五月にして、コンスタンチヌスの奠都より、千百二十三年を經たり。〔35陸士〕

【一四五三年に起りし事件】

ギリシア帝國(東ローマ帝國の)滅亡す。〔33一高、42海機〕

【コンスタンチノプルの陷落の年代】

一四五三年。〔33二高〕

【トルコ人のコンスタンチノプル占領の世紀】

第十五世紀。〔39海機〕

【コンスタンチノプルの現所屬に歸したる時代及其事歷】

オスマンリ・トルコ小アジアに勃興し、ムハメット二世に至り、遂に大軍を以て此都府を圍み五十三日にして之を陷れ、ギリシア帝國遂に滅べり。時に一四五三年五月にして、コンスタンチヌスの奠都より、千百二十三年を經たり。トルコは都を此處に移し、此後國勢益振へり。〔40長高商〕

【ヨーロッパに於ける國勢平衡】

國家の獨立と安全を保持し、君主の侵略的野心を抑制せん爲、歐洲の國際間に採用せらるゝ大旨義なり。一四九四年フランス王カロロ八世がイタリアに侵入せし當時、同國の政治

家が始めて唱道する所と傳へられ、翌年現に法王、ベネチア、オーストリア帝、アラコス王、シラシ公の令從してフランス王を牽制するとあり。元來ヨーロッパ列國は之に因て立ち、一六四八年十月ミュンエステル條約は、現に國勢平衡を承諾し、一八一五年ヴィーン列國會議により、ヨーロッパ一般の國勢平衡は整頓せられ、一八三〇年以後、之に關係せる諸國の承諾を得ずして、其平衡を打破せんと議するもの、始ど跡を絶つに至れり。〔42神高商〕

【マキアベリ】
フイレンツエの政治家且歷史家。フイレッツエ共和國書記官として、外國に派遣せられ、敏腕を振ひしも、メヂチ家に反對し、歸國後禁錮せられ、後赦さる。晩年主に文筆を事とし、イル・プリンチベを著はし、陰險陋劣なる手段を賞揚し、勉めて武力に訴へるを避くるを述ぶ、所謂マキアベリズム是なり。一五三〇年歿す。〔33六高〕

【文藝復興】
第十五及第十六世紀、ヨーロッパに於て、古代の學問及技藝の復興せしことにて、第十三四世紀頃より、專らギリシア、ラチンの古學を研究する風漸く起れる時、東ローマ帝國がトルコの壓迫を受け、ギリシアの學者多く古書を抱て、難をイタリアに避くるに及び、其風益盛にして、所謂人道派の學者先づイタリアに出で、宗教の束縛を離れて、自由研究をなすを其特色となし、其風ドイツ、フランス、イギリス等に傳はれり。此派の巨擘に、ロイヒリン、エラスムス等ありき。かく古學の復興と共に、美術も亦教會の襲用せる樣式を離れ、宇宙眞美の發揮に勉めしより、彫刻は古代ギリシアの壘を摩し、繪畫の進步は前古に比なく、建築は所謂復活式を出すに至れり。ミケランジエロの建築繪畫彫刻に於ける、ラフエロの繪畫に於ける、共に萬世の師表たり。ズルネレスコ、シオナルド、ブラマンテ等亦著名なり。〔34海機、38東高師、41三高、41美術、42海機、43海兵〕

【グーテンベルヒ】
ドイツ人。一四三六年金屬の活字を發明し、始めて印刷の便を計りしが、資金乏しくして實行すると能はず、漸く資本家によりて其業を始めたり。かくて書籍の印刷容易となり、智識傳播に裨益する所多し。〔34外語、39東高師〕

【第十五、六世紀に於ける航海上の歷史】
十五世紀の初ホルトガル王子ヘンリ率先して天文臺を設け、海員養成所を建て、毎年探檢船を出して、アフリカ西岸の航路を拓かしめ

たり。一四六〇年王子の歿後ジオアン王其志を繼ぎ、益船隊を出して、南進せしめしかば一四八六年バルトロメオ・ヂアズはアフリカの南端クード・ホープ崎に達し、一四九八年バスコ・ダ・ガタは始めて之を回航して、インドの西岸カリコに達し、以て多年の宿望なるインド航路を開けり。又コロンブスはカスチリア女王イサベラの助力を以て、一四九二年西に航して、圖らずも西印度諸島の一に達し、其後尙三回の航海を重ね、後アメリゴ・ベスプッチはポルトガル政府の命を受けて、西アメリカに到り、次で一五一九年マガリアエンスはイスパニア王の命を受け、太西洋を横斷して、南アメリカの南端より太平洋に出で、フイリピン群島を發見し、其身は此に歿せしも、部下は尙續航して、一五二二年本國イスパニアに歸り、始めて世界を週航せり。是によりて地球の球體なると俗耳に入るに至れり。〔33郵電、40商船〕

【コロンブス】

イタリア、ジエノバの人。地球の圓形なるを信じ、インド及日本に達する捷路は、却て西方に航するにありと確信し、先づ之をポルトガル王ジオアン二世に說きしも用ひられず、去てイスパニアに至り、數年の後女王イサベラの賛助を得、一四九二年八月出航し、十月十二日バハマ群島のサンサルバドル島を發見し、次でキウーバ、ハイチに至りて歸る。一四九三年再び航しグアドルフ、ポルトリコ、ジアマイカ等を發見して歸り、一四九八年第三回の航海をなし、トリニダート島及アメリカ大陸の沿岸を發見せしも、讒言により縛せられて本國に送還せられしが、イサベラ之を許す。一五〇二年第四回の航海をなし、中部アメリカを發見す。此時大に困難を極め、且病を得て終に本國に歸りしも、女王歿して後顧みる者無く、一五〇六年五月歿す。〔31海兵〕

【コロンブスのアメリカ發見の年代】

一四九二年。〔39海兵、40女高師〕

【コロンブスのアメリカ發見の世紀】

第十五世紀末。〔31海兵〕

【アメリカ發見】

ジエノバ人コロンブス、太西洋を西航するを印度に到る捷路なりと確信し、カスチリアの女王イサベラの助力を得、一四九二年西に航して圖らずも西印度諸島の一に達し、其後尙三回の航海を重ね、漸次キウーバ、ジアマイカ、オリノコ河口、ホンヂラス沿岸等の探檢を遂げしが、其新大陸たることを知らずして歿せり。此新大陸アメリカと稱するは、其後アメ

リゴ・ベスプッチが、南アメリカニ到れる爲、其名に因めるなり。〔35陸士〕

【アメリカ發見の動機及影響】

十三世紀半頃マルコ・ポーロの見聞錄世に出て、又東洋の貨物高價なるを以て、世人はインドに遠航し、其輸入をなさんと欲し、其航路を求むをに至りしが、コロンブスは大西洋を西航するをインドに到る捷路なりと確信し、西航して圖らずもアメリカを發見するに至れり。かくて新世界の發見より、世界回航も起り、歐洲文化を世界に傳播し、商工業の勃興となり、學術特に地理學博物學研究盛況に向ひ、植民事業の盛大を來せり。〔41海兵〕

【ヂアズ】

ポルトガルの航海者。ジオアン二世の命を受け、アフリカ西岸を南に航し、遂に其南端に達し、之を禁風岬と名く、後の喜望峰是なり。是より又カブラルの下にブラジルに航し、一五〇〇年歿す。〔35商船、36東高師〕

【バスコ・ダ・ガマ】

ポルトガルの有名なる航海者、グードホーフ岬を回航して、ヨーロッパよりインドに至る航路を開きし人なり。即ち一四九八年インドの西岸カリコに着し、土人を征服し、ポルトガル植民地を建て、後インド總督に任ぜらる。〔33二高、36專門、36外語、38山高商、41專門〕

【喜望峯發見の世紀】

第十五世紀。〔39海機〕

【ヨーロッパより喜望峯を經て印度に到る航路を發見せし事蹟】

バスコダガマを見よ。〔31東高商〕

【歐洲人にして始めて喜望峯を廻航せし人の姓名、國籍、廻航の年代幷に廻航に關する事蹟】

バスコ、ダ、ガマを見よ。〔43海經〕

【マガリアエンス】（マゼラン）

ポルトガルの航海者。初國命を奉じ東インド及びモロッコに航し、其後イスパニア王カロロ五世の保護の下に、一五一九年西方の航路を取りて、南アメリカの南端を過ぎ、モルッカに向ひ、フイリッピン諸島を發見し、島民の爲に殺さる。此航海に於てマガリアエンス海峽を發見し、又太平洋を橫斷せしは、之を以て嚆矢となす。〔35商船36外語〕

【コルテス】

イスパニアの軍人。一五二一年メキシコを略し、以てイスパニアに一の富源を增加せしめし功あり。〔37外語〕

【ピザルロ】

イスパニアの冒險家にして、本國の許可を得、一五三二年より五年間、黃金に富める南アメリカのペルーを探檢し、インカ帝國を征服し、

次て一五四一年チリを略し、共にイスパニア領となし、功を以て侯爵に叙せらる。〔35外語〕

【歐洲諸國中ブラジルに始めて植民せる國及年代】

ポルトガル　一五〇〇年。〔38外語〕

【カナダに始めて植民せる國及年代】

フランス　一六〇三年。〔38外語〕

【ドレーク】

イギリスの水師提督。一五七七年五艘の船を率て、南アメリカに至り、マガリアエンス海峽を通過し、太平洋を横切り、喜望峯を經て歸る。一五八七年イスパニアの艦隊をカヂスに、翌年又無敵艦隊をイギリス海峽に粉碎し、大にイギリスの海上權を確保せり。一五九五年歿す。〔34東高師〕

近古

【ルーテルの宗教改革】

ウイグリフ及フスの宗教改革の企圖失敗後、教會の腐敗、法王の俗化甚しく、十五世紀より十六世紀に亘り、宗教改革の氣運大に熟せりしに、ローマ法王はドイツ帝權の衰微に乘じ、人民に獻金を強いて、驕奢の資に充て、法王レオ十世は、寺院建立の爲に、罪障消滅札をドイツに賣らしめたり。マルチンルーテル嘗てローマに遊び、教會腐敗の實狀僧侶の墮落を親く目擊して大に痛恨せしが、今や罪障消滅札販賣を目擊して大に激し、一五一七年九十五個條の意見書を發表して、之を攻擊し、法王より破門せらしも、其破門狀を燒きて決心を示し、宗教改革の端緖に發せり。ドイツ帝カロロ五世法王の歡心を得んとし、一五二一年國會をウォルムスに開き、ルーテルを召して其說を翻さしめんとせしも、頑として之に應ぜす、爲に其身危かりしかば、領主サクソニヤ公の保護を受け、ワルトブルグ城に隱れて、聖書をドイツ語に翻譯せり。其間にルーテルの說は、次第にドイツ國内に流傳し、其徒日を逐ふて增加するに至れり。〔35東高師、35女高師、37東高商、38外語、40海機、42專門〕

【ウォルムス】

ドイツ國ヘッセ・ダルムスタットの一市、ライン河の左岸に位す。皇帝カロロ五世一五二一年此地に國會を開き、ルーテルを招きて、其說を翻せしめんとせしが、頑として之に應ぜざりき。〔36東高師、43東北農〕

【シユマルカルデン同盟】

一五三〇年カロロ帝はアウグスブルグに國會を開き、新舊兩教の調和を圖りしが、舊教徒は新教徒のメランヒトンの起草せる信條を容れず、却りて新教排斥を決議せしかば、新教徒

は自黨保護の爲、翌年シゥマルカルデン同盟を組織せり。〔40神高商〕

【カルビン】

フランスの宗敎改革者。幼にして法律を學び、ラテン語に熟達し、經典を研究するに至り、飜然として悟る所あり。一五三二年宗敎改革を唱へ、パリを追はれ、バーゼルに行き、後ジウネーブに赴き、一五六四年死す。其說ルーテルと殆ど同じけれども、唯儀式祭祀を廢し、聖餐は精神上に感受するものなりといふを異なりとす。〔35各高等〕

【エスイタ】(ゼスイト)

イスパニア人ロヨラが、創唱したる基督敎の一派にして、宗敎改革の反動として興り、新敎に對し、法王の威權を維持せんとする主義を有するものなり。一五四〇年法王パウロ三世の許を經て、公然布敎に從事することとなり、熱心に四方に布敎したれば、其派大に世に行はるゝに至れり。〔42神高商〕

【ザヴイエー】

エスイタ派の開祖ロヨラの敎友にして、此派の創立に盡力し、次てキリスト敎弘布の爲、一五四二年印度のゴアに來り、其後六年にして我鹿兒島に來り、次で平戶、山口、京都等に布敎し、留まること四年。後一旦ゴアに還りしが、後マラッカ・シンガポールを經て、サン・シアンに着し、一五五二年病殁す。〔37各高等、38專門、41八高、42海機〕

【オランイエ・ウイルレム】

ナッソー伯ウイルレムの子なり。イスパニア王フイリポ二世ネーデルランドを支配し、アルパ公を遣はして新敎徒を抑壓するに及び、一旦ドイツに逃れしが、一五六二年國人大に起り、イスパニアの羈絆を脫せんと圖り、迎へられて君主になり、ネーデルランドの獨立と國內の新敎徒とを保護し、イスバニアの精兵と戰ひて曾て敗れず。一五七九ユトレヒト同盟の盟主となり、次で獨立を宣言し共和の政を布く。ウイルレム深沈にして大度あり。フイリポ恐れ刺客をして之を暗殺せしむ。時に一五八四年なり。〔35千醫專〕

【必勝艦隊】(無敵艦隊)

イスバニアの艦隊、イギリス女王エリザベタ、イスパニア王フイリポ二世の政略に反對し、或ばオランダの獨立を援け、或は西インドを侵するに當り、此艦隊を遣はして、イギリスを攻む。一五八八年兩國艦隊イギリス海峽に戰ひ、其結果無敵艦隊粉粹せられ、イスパニアの勢力是より全く衰ふ。〔37各高等〕

【北アメリカ、バージニアの植民】

イギリス女王エリザベタの時、サー・ウォルター・ローリー北アメリカを探検す、植民地を

建て、女王の名譽の爲バージニアと名けたり。〔41商船〕

【シエクスピア】

イギリスの大戯曲家、ストラトフォードに生る。一五八五年ロンドンに移り。ストラトフォード大學に學ぶ。妙作極めて多くベニスの商人、マクベス、ハムレット、オセロ等人口に膾炙す。一六一六年卒す。〔41五高〕

【エリサベタ朝の知名なる文士の名】

シエクスピア。〔33美術〕

【ユグノー】

フランスのカルビン派の新教徒のことを、舊教徒嘲りてかく稱へたり。フランス國王フランシス、及ヘンリ二世は、政略上ドイツの新教徒と結びて、カロロ五世に當りしも、國内に於てはユグノーを迫害したれば、其徒大に激昂し、一五六二年ユグノー戰役を見るに至りしが、其結果新教徒の敗戰に終れり。〔43山高商〕

【セン・バルトロメオ祭の虐殺】

フランス王カロロ九世は、當時イスパニアの强大にして、己が國事に干渉するを惡み、耶蘇新教徒の力を借りて、之に當らんとし、其首領コリニーを宰相とし、王妹マルガレタを新教徒の奉載せるナバラ王ヘンリに配し、一方にはオランダと同盟して、イスパニアと開戰する準備をなせり。然るに母后カタリナ、コリニーを忌み、之を暗殺せんとして成らりしが遂に王に迫りて、新教徒鏖殺の命令書に署名せしめ、一五七二年八月廿四日セン・バルトロメオ祭日の夜、コリニー以下パリーに在る新教徒二千餘人を虐殺し、延きて三日に及び、流血杵を漂はす。諸地方亦之に倣ひ、數日の間に新教徒三萬餘人を殘殺せり。〔43海機〕

【三十年戰役】

ドイツの新舊兩教徒間の爭にして、一六一八年ボヘミア戰役を以て始まり、一六四八年ウエストフアリアの和議を以て終る。此戰役を分つてボベミア戰役時代(一六一八―二四年)、デンマルク戰役時代(一六二四―二九年)、スウエーデン戰役時代(一六一〇―三五年)、スウエデン、フランス聯合時代(一六三五―四八年)の四時期とす。デンマルク王クリスチアン四世、スウエーデン王グスタフ・アドルフ、フランスの宰相リシエリユー等相次で此戰役に關係し、ドイツ皇帝の將チリ、ワレンスタイン等と相戰ひ、互に勝敗あり。後兩者互に戰爭に倦み、其結果和議となる。即是によりてフランスはエルザスの大部を得、スウエーデンはバルト海岸に多く重要の地を得、オランダ、スウイスは各其獨立を承認せられ、

新舊兩敎徒は各同等の權利を得るに至れり。〔33海機、37陸士〕

【三十年戰役の原因】

ドイツは宗敎改革の根原地なりしが、反動も亦盛にして、新舊兩敎徒の軋轢漸く甚しく、各同盟を作り相抗爭せり。一六一八年マチアス帝其從第フェルヂナンドをボヘミア王となしゝが、王は幼よりイエス社の敎育を受け、大に舊敎徒を保護して新敎徒を抑えしかば、ボヘミア人之を憤り、王を國外に放逐し、是より三十年戰爭起れり。〔33海機〕

【一六一八年に起りし事件】

三十年戰役始まる。〔33一高〕

【三十年戰役に關係せし主なる人名】

チリー、ワーレンスタイン、クリスチアン四世、グスタフ・アドルフ、リシウリウー。〔33海機〕

【ウエストフアリア條約】

三十年戰役の局を結びしにて、ヨーロッパ歷史中最も重要のものなり。此條約により、(一)フランスはエルザスの大部分、メッツ、ツール、ベルダン等のライン左岸の地を得、(二)スウエーデンはポメラニアの西部を得て、ドイツ議會に參與する權を得、(三)オランダ、スウイスの二國は獨立を承認せられ、(四)ブランデンブルグ、バワリア等は新領土を加へ、(五)カトリク(舊敎)、ルーテル、カルビンの敎徒は共に同權利を得たり。〔36東高師、37東高師、40神高商、41東高師、42陸士〕

【ウエストフアリア條約締結の年代】

一六四八年。〔33六高、39海兵〕

【三十年戰役の結果】

三十年戰役はドイツに起りしを以て、ドイツの慘害を蒙りしと頗る甚しく、人口は其三分の二を減じ、田野都邑は悉く荒廢し、商工業は萎靡し、ハンザ同盟は解散し、學術技藝亦大に衰へ、皇帝も爲に其威嚴を失し、國内分裂して數多の小獨立國を生じ、中央集權の實無く、士民愛國の精神も蕩然として地を拂へり。之に反してフランス、スウエーデンは各領地を擴めて、國威大に揚り、ヨーロッパ各國の信敎は、全く自由となれり。〔34東高師、42東高師〕

【グスタフ・アドルフ】

カロロ九世の子、一六一一年スウエーデンの王位に卽くや、國政を改革し、軍備を充實し其精銳なる兵を率ゐ、デンマルク、ロシア軍を破り、又ポーランドの紛擾に乘じて、地を割かしめしが、三十年戰役起るや、ドイツの新敎徒を助けて、一六三二年ドイツ皇帝の軍とリウツエンに戰ひ、勝を得しが、不幸にして

戰傷を負ひ陣中に歿せり。〔34各高等、41外語〕

【ワレンスタイン】ドイツの名將。一五八三年ボヘミアに生る。三十年戰役の際、デンマルク王クリスチアン四世の軍を擊破し、一旦讒に遭ひ黜けられしも、スウェーデン王グスタフ・アドルフの侵入するに及び、復擧げられて、スウェーデン軍と激戰せしが、一六三二年リウツエンに大敗してより名聲地に墜ち、再び職を退けられ、一六三四年刺殺せらる。〔34東高師〕

【リシウリウー】フランスの大政治家。一五八五年パリの一貴族の家に生る。ルイス十三世の世擧げられて宰相となり、專心王權の擴張を圖り、諸侯伯の跋扈を抑へ、ユグノーの政權を奪ひ、かくて內國家の統一を固くし、外ハプスブルグ家の勢力を減殺せん爲、ドイツの新敎徒を援けて三十年戰役に干涉せり。又文學を保護し、フランス大學を創設す。一六四二年歿す。〔39專門、40各高等、40東高師〕

【マザレン】イタリア人、一六二〇年生る。ローマ法王の爲にフランスに使し、リシウリウーの知遇を受け、遂に留り其死後フランスの宰相となり、其遺業を繼ぎて國の强盛を計り、三十年戰役の結果、ウエストフアリア條約を締結せしめ、又イスパニアと戰ひ、ピレニー條約を結びて、領土を得たり。一六六一年死す。〔41山高商〕

【ルイス十四世朝のフランス】ルイス十四世の世は、實にフランス隆昌の極に達せり。王は貴族僧侶に榮爵を與へて、其人心を收攬し、君主の威嚴を添へん爲、壯麗なるベルサイユ宮殿を興し、天下美術の粹を集め、又大に文學美術を奬勵せしがは、ラシーヌ、コルネイユ、モリエール等の大家出で、フランス文學の隆盛なる、前古其比を見ず。各國競ふてフランスの風尙を模し、フランスは自らヨーロッパ文化の中心となれり。後人稱してルイス十四世時代と云ふ。實にブルボン王朝極盛の時代なり。然れども王の驕奢と外征との結果、財政紊亂し賦歛重くして、國民苦み、一六八五年ナント勅令廢止せらるゝや、商工業者多く外國に奔り、國力を損すること少からざりき。〔35美術〕

【コルベール】フランスの政治家。一六一九年生る。ルイス十四世に登用せられ、宰相となり、財政を輔弼し、固く保護政策を執りて、大に國內の產業を奬勵し、又海外植民貿易を振起したる等、功績の著きものあり。一六八三年歿す。〔41東高師、42東高師、43東高師〕

【ユイラシアーペル】
ドイツにてアーヘンと云ふ。ドイツ中最古市府の一なり。カロロ大帝の都にして、今尙ほ墳墓あり。又此地にて一六六八年、及一七四八年の兩度條約は結ばれたり。〔35各高等〕

【ユトレヒト條約】
一七一三年オランダのユトレヒトに於て、フランス對イギリス、オランダ、プロシヤ、サボヤ、及ポルトガルとの間に、結ばれたる和親條約にして、(一)列國はフランス、イスパニアの合併せざるを條件として、フイリポをイスパニア王とし、(二)イギリスはジブラルタル及ミノルカ島をイスパニアより、ハドソン

灣地方ノヴワ・スコチア等をフランスより、割取し、(三)サボヤはシチリアを得、又ブランデンブルグと共に王國の稱號を許されたり。〔36陸士〕

【ユトレヒト】
和蘭アムステルダムの東南の城市なり。一七一三年此地に於て條約締結せられ、イスパニア繼承戰爭終局を告ぐるに至れり。〔42東高師〕

【スチウアルト王統】
イギリスに於て、一六〇三年より八九年まで主權を握りたる王統にして、イギリス王エリサベタが一六〇三年殂落するに及び、スコットランド女王マリ・スチウアルトの王子ジエームス六世入てイギリス王となり、ジエムス一世と稱す。是スチウアルト朝の始祖にて、是よりイギリス、スコツトランド一統の下に歸せしが、ジエームス二世廢位にてスチウアルト王統は終れり。〔43商船〕

【クロムウエル】
イギリス議院の名將にして、カロロ一世を破り、スコツトランド人が之を虜にするや、議會の裁判に付し、一六四九年死刑に處せり。かくてイギリスは共和政體となり、自ら共政府の長官として、內武斷政治を行ひ、外航海條例を發布して、オランダを抑制し、又フランスと結びて、イスパニアを征し、ジヤマイカ島を取り、大に國威を發揚せしが、其施政嚴酷に失せしかば、國人怨嗟し、王政の復古を念ふに至れり、遂に憂を以て病を得、一六五八年卒す。〔商船、36外語、40海機、41六高〕

【航海條約】
イギリスのクロムウエルが、一六五一年發布せし法令にして、其要は外國の產物をイギリスに輸入するものは、必ずイギリス船に依らざる可らずといふにあり。オランダは之が爲商業上大なる影響を受け、遂に干戈を交ふるに至れり。〔35東高商、40陸士〕

【一六八八年に起りし事件】
イギリスに於ける名譽革命。イギリス人ジェームス二世を廢し、ウイルレム三世を立つ。〔33 一高〕

【十七世紀の中頃北アメリカに植民地を有せし歐洲諸國の名稱及各國植民地の位置】
イスパニヤはメキシコの地に植民し、イギリスは今日の合衆國東部、太平洋沿海一帶を拓殖し、フランスはカナダの東部、及ミシシッピー河の兩岸の地を領有せり。〔39 外語〕

【イバン四世】
モスクバ大公イバン三世の子にして、始めてツアールと稱す。コサク人を征服し、之をして一五七九年オビ河畔シビルを攻略せしめたり。是實にロシヤのシベリア侵略の初なり。〔41 山高商〕

【ペテロ大帝】
ロシア皇帝、一六八二年位に即くや、國力振張の政策を執り、自らドイツ、オランダ、イギリス等の諸國を巡遊し、詳に其制度文物を視察し、オランダのザーンダムに於ては、職工に伍して親しく造船術を究め、歸國の後直に制度風俗を始め從來の弊政を改革し、一七〇三年首府をペテルブルグに奠め、一七〇九年スウエーデン王をポルタバに破り、之をトルコに走らせしが、一七一一年トルコを討て却りて大に敗れ、侵地を還して和せり。かくペテロ帝は、ロシアを興隆せしめ、威名を列强に轟かせしが、一七二五年五十二歳にて歿せり。〔40 海機〕

【ロシアが歐洲諸國に勢力を認められし世紀及帝王】
第十八世紀にてペテロ大帝の時なり。〔36 海機〕

【一七〇〇年に起りし事件】
北方戰爭始まる。〔33 一高〕

【ニスタット條約】
一七二一年ロシアのニスタットに於て、ロシア、スエーデン兩國の間に結ばれたる條約にて、北方戰爭は之にて終れり。此條約によりロシアはエストランド、インゲルマンランド、リウオニア等のバルト海沿岸の地を得、スウエーデンにはフインランドを還附し、且二百萬ターレル（約四百萬圓）を辨償せり。〔39 陸士〕

【ロシアのシベリア經略】
ロシフはイバン四世以來、漸次シベリアの侵略をなし、其一隊は遂にカムチヤツカ半島を占領し、淸國の北境に迫り、ペテロ大帝の時には兩國境界の紛爭を釀し、一六八九年ネルチンスキ條約を結びて、外興安嶺とアルグン河とを以て、兩國の境となせり。かくてロシヤ

の領土はシベリアを包有して、オホーツク海に達せしが、カタリナ二世に至り意を此方面に注ぎ、イルックに日本語學校を立て、船艦を千島近海に出して、我北邊を窺覦し我國との交通亦漸く起らんとするに至れり。〔35專門、41一高〕

【ロシヤ帝國の現況に達せし主なる事蹟】
イバン三世の時ロシヤ統一の基をなし、次で一六八二年ペテロ大帝即位するに及び、制度風俗を改善し、ペテルブルクに都を奠め、ロシヤの面目を一新せり。是より先イバン四世の時シベリヤ拓殖の端を開き、漸次東方を經營し、遂に今日に至れり。〔31東高商〕

【フレデリキ大王】（フレデリキ二世）
フレデリキ・ウイルレム一世の子にして、大才あり。文學を好み、武略に長じ、父王の餘澤を受け、其資財と精兵とを用ひて、偉勳を樹て、他日プロシアが覇をドイツに稱する基を作れり。即ちオーストリア繼承戰役に乘じ、二回のシレシア戰役を起し、七年戰役により、オーストリアよりシレシアを奪ひ、シレシヤ領有を確認し、年來攷々として戰後の經營に力を盡し、大に國力を發展し、プロシアをヨーロッパ强國に伍せしめたり。後ポッタムの園林に居を定め、閑日月を此に送り、文學を

以て晩年を樂めり。〔33郵電、36東高商、37東高商、41長高商〕

【オーストリア繼承戰役の原因】
ドイツ皇帝カロロ六世男子なかりしかば、プラグマチツシエ・サンクチオンといふ女子の相續を許す家憲を作り、列國の承認を得、オーストリアの全領を皇女マリア・テレサに讓るに決せしが、一七四〇年帝殂するや、バワリア侯カロロ・アルベルトは、フランスの後援を得て繼承權を主張し、サクソニア選擧侯アウグスト三世、イスパニア王フイリポ五世も亦共に異議を唱へ、遂に戰爭を見るに至れり。〔41東高師〕

【七年戰役】
オーストリア女帝マリア・テレサは、王位繼承の役後プロシア王フレデリッキの爲、シレジア領を奪はれたるを深く怨とし、大に内政を振作し、殊に外交に意を用ひ、密にロシア、フランスと款を通じ、又プロシアの强大を妬めるサクソニアを誘ひ、聯合して時機の到るを待てり。フレデリッキ王夙に其動靜を探知し、海外に於て毎にフランスと相爭へるイギリスと同盟し、一七五六年機先を制して急に兵をサクソニアに進め、首都ドレスデンを占領せり。かくて戰端玆に開かる。此役にプロシアはヨーロッパの殆ど諸强國を敵とせしも、

大王の用兵神の如く、ロスバッハ、ロイテン等に勝利を得しが、クネルスドルフに戰敗後プロシアの勢大に挫け、加ふるにイギリスは軍資の發送を止めしかば、大王大に悲境に陷りしも、遂に屈せず。一七六二年ロシア帝ペテロ三世即位してプロシアを援け、一七六三年イギリス、フランス和成り、フランス兵ドイツを撤退するに及び、形勢全く一變し、同年フベルツスブルクの和約を見るに至れり。此結果各國の境界は悉く舊に依り、プロシアのシレジア領有を重ネテ確立し、プロシアはマリア・テレサの子ヨセフを皇帝に選擧すべきことを約せり。〔33二高、40女高師、43東高師〕

【フベルツスブルク條約】

ドイツ、サクソニアの一村、フベルツスブルグに於て、一六七三年プロシア、オーストリア間に結ばれたる平和條約にて、七年戰役其局を結べり。此條約にてプロシアはマリア・テレサの子ヨセフのドイツ皇帝たるを認定し、シレシアの地のプロシア領たるを確定したり。〔39陸士〕

【マリア・テレサ】

オーストリア女帝、カロロ六世の女。一六四〇年其父殂するに及び帝位に上りしが、プラグマチツクサンクチオンの事より、遂にオストリア繼承戰役を惹起し、干戈を動かすこと七年、一七四八年アーヘンの和議を結びしが、暫時にして平和破れ、フランス、ロシア、サクソニアの後援を得て、プロシアのフレデリキ大王に當り、以て前日失ひしシレジアの領土を恢復せんとせり。是七年戰役にして、マリア・テレサの失敗に終りぬ。然れどもポーランド分割に與りて、從來の損失を償ふことを得たり。〔34東高師〕

【ジブラルタル】

イスパニアの南端にあるイギリスの港にて、ジブラルタル海峽に臨む。其砲臺は堅牢無比なるを以て有名なり。七一一年タリク、サラセン人を率ゐて此地を攻略したり。ジブラルタルなる名は是より起れり。一七〇四年以來イギリスに屬す。〔40長高師〕

【十八世紀に於けるイギリス、フランス二國の殖民地に關する競爭】

イギリス及フランスは、アメリカ及インドに於て植民地相接し、各拓殖の歩を進めしかば、本國の衝突ある毎に、植民地も亦衝突せり。オーストリア繼承戰役の頃、フランスのデュプレース、インド總督たり、巧妙なる政略を以て勢力を扶植し、イギリスのマドラスを略取せしが、アーヘンの和成るに及び、之を還せり。一七五六年ヨーロッパに七年戰役起るや、延いて植民地七年戰役となり、アメリカ

に於ては、イギリス軍連りに勝ちケベック、モントリオールを陥れて、遂にカナダを略取せり。インドに於ては、イギリス東インド會社の書記に身を起ししクライブ、フランスに結べるベンガル王の大軍を一七五七年プラッシーに撃破し、次でベンガルを保護國とせしかば、フランスの勢復振はず、イギリスのインド領玆に胚胎せり。一七六三年パリの平和條約にてカナダはイギリスの有となり、イギリスの東インドに於ける侵地は、フランスに返すとこととなれり。〔41六高〕

【ポーランド分割の顚末】

ロシア女王カタリナ二世は、ポーランドが選擧王國の制にて、上下軋轢し民心一致せざるに乘じ、兵力を以て其嬖人スタニスラ・ポニアトウスキを王位に即け、ポーランド人か反抗するに及び、兵を出して之を鎭壓す。フロシア王フレデリキ二世之を見て、自ら安ぜず、オーストラリア帝ヨセフ二世と謀り、ポーランド分割を唱道し、ロシアを贊同せしめ、一七七二年三國遂に協約して、各其境上の地を奪略せり。之を第一回分割とす。是に於てポーランドの志士等大に憤慨し、一七九一年新憲法を制定し、多年紛擾の原因たりし選擧王制を改めて、世襲となし、又國會を設けて人民の意を迎へしかば、カタリナ大に驚き、兵をポーランドに入れたり。ポーランド愛國の志士コシウーシコ國人を糾合し、大にロシア兵に抗せしも敗れ、ロシアは獨りポーランドを略せんとせしがば、プロシアも亦兵を入れ、一七九三年共に第二回分割を行へり。コシウーシコ憤慨禁ぜず、翌年復義兵を擧げ、故士の回復を圖りしも成らず。次でロシア・プロシア・オーストリアの同盟軍國都ワルシアワを陥れ、第三回分割を行ふ。ポーランド王國遂に滅ぶ。時に一七九五年なり。〔33二高、35海兵、37各高等、37商船、43長高商〕

【ポーランド分割の世紀】

第十八世紀。〔39海機〕

【ポーランド滅亡の年代】

一七九五年。〔39海兵〕

【コシウーシコ】

ポーランドの志士一七四六年生る。アメリカ獨立戰爭に植民軍に投じて功あり。後歸國し常に本國のロシアの干渉を受くるを憤り、一七九一年ロシアに反抗し、革命運動を起して成らず。第二回分割に及び益憤慨し、一七九四年同志を募て事を擧げしが、忽ちロシア軍に破られて虜となり、後赦されてスウイスに至り、一八一七年死す。〔40陸士候〕

【アメリカ合衆國獨立の顚末】

イギリス政府はオーストリア繼承戰役、及七

年戰役等の爲、財政因難となりたれば、一七六五年印紙條例を發布し、アメリカ人民に課税して、國庫の空乏を補はんとせしかば、植民地民は之に反對し、翌年條例は廢止せられしが、更に硝子織物等の輸入品に課税せられたり、かくて植民地人心激昂の時に當り、一七七三年ボストンにて茶船狼藉事件起り、イギリス兵力を以て之を威壓せしかば、植民地十三州の人民大に怒り、一七七五年ワオシントン指揮の下に獨立軍を起し、翌年七月四日獨立を宣言せり。是に於てヨーロッパ列國多くアメリカに同情を寄せ來りて、獨立軍に投ずる者多かりしが、アメリカ軍は兵器糧食に乏しく、初連戰利を失ひしが、一七七七年サラトガに大捷を得し爲、軍勢甚だ振ひ、同年十三州の植民地聯邦を組織し、アメリカ合衆國と名けしより、フランス、イスパニアは公然之と同盟し、一七八一年ウオシントン海陸よりイギリス軍の根據地ヨークタウンを攻圍して、コーンウオリス侯及其部下七千を捕虜となせり。かくて合衆國獨立の實擧り、列國皆獨立を承認せしかば、一八一三年イギリスも亦遂にベルサイユの和約によりて、其獨立を承認するに至れり。〔33東高師、33東高商、36東高師、36商船、33東高師、51美術、42各高等〕

【アメリカ合衆國獨立宣言の年代】

一七七六年。〔38海機、39海兵〕

【フイラデルフイア】

北アメリカ合衆國ペンシルバニア州の最大都會。嘗てイギリスが其北アメリカ植民地に課税せんとするの不法を鳴らし、一八七四年植民地十三州の代議士玆に會し、イギリスとの通商を全く拒絕することを議決し、翌年ウシントンを推して元帥とし、一七六六年七月獨立宣言書を公布し、又獨立後一七八七年各州の代議士此府に會し、新憲法を議定したることあり。〔41五高〕

【バンカース・ヒル】

北アメリカ合衆國、ボストン府の一高地なり。アメリカ獨立戰爭の時、一七七五年六月第一回の激戰ありし地なり。〔35各高等〕

【フランクリン】

北アメリカ合衆國の政治家なり。一七〇六年ボストンニ生れ、後フイラデルフイアに印刷業を起し、相當の地位を得たり。アメリカ合衆國獨立の事起るや、フランスに赴き、援助を求め、同國の同盟を得るに大に與て功ありき。尙物理學に長じ、避雷針の發明を以て名高し。一七九〇年歿す。〔44東高師、43長高商〕

【ジエフアーソン】

北アメリカ合衆國第三大統領。バージニア州

に生れ、五歳にしてイギリスに學ぶ。北アメリカ獨立の際ウオシントンと圖り功あり。一七七九年バージニアの知事に選ばれ、一八〇一年大統領となる。一八二六年卒す。〔33 一高〕

【十八世紀初年にかける歐洲列强國】

イギリス、フランス、ロシア、イスパニア、ポルトガル、プロシア、ポーランド、オーストリア、スウエーデン等。〔35 海機〕

【ベーコン】

イギリスの哲學者。ケンブリッチ大學の出身にして、代議士となり、後檢事總長、掌璽官、高等法院長に累官せり。後罪を得て牢獄に繋がれしが、其赦さるゝや專心學術の研究に從事し、アリストテレスの演繹法に對して、歸納法の論理を唱道す。其著アドバンスメント・オヴ・ラーラング及ノバム・オルガヌム等は普く世の知る所なり。一六二六年歿す。〔40 海機、41 外語〕

【モリエール】

フランス、パリーの人、一六二二年生る。初法律を學びしが後詩人となり、喜劇作者として一世に鳴る。其風俗を模し、人物に扮する千狀萬態、實に稀世の珍たり。一六七三年歿す。〔36 東高師〕

【ルソー】

フランスの思想家兼敎文家、一七一二年生る。父はジウネーブの時計師なり。其著民約論は一般讀會界の珍となりしが、之が爲にフランスを逐はれ、一七七八年ブルッセルに客死せり。著書は民約論の外尙數多あり、革新文學を唱道し、社會人心に大影響を與へたり。〔33 六高 35 郵電〕

【アダム・スミス】

スコットランドの有名なる經濟學者、グラスゴー、オクスフォード及エヂンバラの諸大學に學び、後パリーにも遊ぶ。其著書の內富國論は十年を費して成りたるものにして、經濟學の嚆矢と稱せらる。一七九〇年歿す。〔41 山高商〕

近　世

【近世史の特質】

封建の制破壞して中央集權起り、小國は次第に大國に結合する傾向あり。又極端なる君主專制、及極端なる民主政治の共に弊害あるを認め、立憲代議政體漸く起れり。而して愈近世となりては、國家主義大に發達し、人民結合の力强盛となり、政教の分離と共に、政治の基礎亦堅固に趣き、實業の精神大に振起し、學術技藝駸々として日に進歩するに至れり。〔35 千醫專〕

【フランス大革命の原因】

フランスはルイス十四世以來全く專制政治と

なり、王は恣に人民に課稅し、又之を禁錮せり。加ふるに少數の貴族及僧侶は、全國土地の三分の二を所有し、免稅の特權を有し、豪華を極むるに反し、多數の平民は貧困して國費を負擔し、往々飢餓に迫るに至りしかば、モンテスキウー、ボルテール、ルソー等の說は人民の喜ぶ所となり、王室は人民の怨府となれり。適アメリカ合衆國の共和政治を建設するを見しかば、之に效ふの念盛に動き、かくて革命の遠因玆に胚胎せしが、一七七四年ルイス十六世立ち、前王以來奢侈外交等經營多端の後を承け、國債山の如く、國家破產に瀕せしかば、財政整理の必要あるも、王は果斷の貧に乏しく、遂に革命を惹起するに至れり。〔35東高師、37東高師、40長商高〕

【フランス華令の發端の年代】一七八九年。〔33二高〕

【一七八九年に起りし事件】フランス革命の發端。ウオシントン、アメリカ合衆國大統領となる。〔33一高〕

【フランス革命の大體】十八世紀の末起りたる革命にして、革命黨は在來の政府を顚覆し、國王ルイス十六世を捕へ、一七九三年一月之を死刑に處してより、國內未曾有の擾亂を極む。即ち其國會の狂暴なる外交は、殆ど全ヨーロッパを敵とし、財政の困難、貴族と農民との軋轢、黨派の爭は極端に走り、遂に救濟の途無かりしが、革命の末にナポレオン、ボナパルト出でて玆に國內を一統せり。〔36音樂〕

【フランス革命の歐洲に及ぼせる影響】プロシアは文學科學の隆盛に伴うて、革命の思想其中に萌し、イギリスには革命の潮流人心を浸潤して、議會改革の企圖起らんとし、又アイルランドはフランスの援助を得て獨立せんとし、イタリア、オランダにはフランス人の助力を得て、共和國を設立するあり。其他の列國にも國民漸く革命思想に心醉せる所少らず。〔37神高商〕

【大革命以後のフランス政體の變遷】フランス大革命により、王政廢止せられ共和政となり、恐嚇政治となり、次て都督政府建つ。然るにナポレオンは都督府を仆し、執政政治となせしかば、共和國の名あるも其實なし。一八〇四年ナポレオン帝位に即き、帝政となる。其後ナポレオン沒落し、ブルボン朝復位し、王政となりしが、一八四八年二月革命によりて復共和政治となる。然るにルイス・ナポレオン一八五二年帝位に上り、帝政となりしも、ドイツ、フランス戰爭起り、一八七〇年セダ

ンの敗報により、帝政仆れ、共和政となるに至れり。〔34各高等、39海機、42長高商、42外語〕

【フランス革命並にナポレオン戰爭時代に於けるイギリスの對外上行動並に結果】

イギリスはヨーロッパ大陸の攻爭して、外を顧みる違なきに乘じ、連りに海外に力を伸し、益其植民地を擴張せり。殊に殆ど全印度を服し、又フランス及其與國の植民地を奪ひ、セイロン島、ケープ植民地、マウリチウース島西インド諸島を併せ、オーストラリアの拓殖をなせり。尙地中海に於てはマルタ島を取り、イオニア七島の保護權を得たり。〔33六高〕

【ミラボー】

フランスの政治家一七四九年生る。フランス革命の初期、王室の保護と立憲政治施行の爲とに盡力せしが、志成るに至らずして、一七九一年死せり。〔36外語〕

【ロベスピエール】

フランス革命時代に出でたるジアコベン黨の首領。端極なる共和主義を抱持し、王政を顚覆してルイス十六世を死刑に處し、暴力を用ひてジロンデン黨を倒し、後保安委員長となり、悉く反對黨を斬殺し、諸制度を改革し、ダンヤン一派を除き、大に暴威を振ふ。爲に國民集會員等の惡む所となり、一七九四年捕へられて斬らる。〔39名高工〕

【ナポレオン一世】

一七六九年コルシカ島に生る。長じてパリの兵學校に入り、ツーロン攻擊の時に、砲兵大尉として戰功あり。次てイタリアに入り、功を奏してパリに凱旋するや、名聲一世に高まれり。一七九八年エジプトを征服し、其歸國するや政府を仆し、新憲法を作り、自ら第一執政官となる。既にして再びイタリアに入り、オーストリア軍を破り、一八〇一年リウネビール條約を結ばしめ、一八〇四年フランス帝位に上り、ナポレオン一世と稱し、翌年イタリア王を兼れ、一八〇五年其艦隊はトラフワルガルに全滅せしが、自ら陸兵を率ゐてアウステルリッツに、オーストリア、ロシテの軍を破りぬ。かくて彼が權威全ヨーロッパに振ひ、各邦國を略して領土とし、イギリスに對しては大陸封鎖を令し、其勢全盛を極む。既にしてロシアが大陸封鎖を履行せざるを見て、一八一二年自ら五十万の大軍を率ゐ、モスクバに入りしが、大敗してパリに歸る。是に於て諸國群起し、兵を擧げて佛境に迫る。ナポレオン進で聯合軍とライプチヒに戰ひしが大敗し、翌一四年エルバ島に流滴せらる。一八一五年三月密に島を脫してフランスに歸り、人民の歡呼を受けしも、六月列國軍とワ

ーテルロー」に激戰し、敗れて遂にセントヘレナに流され、一八二一年五月五日同地に歿す。〔33海機、34美術〕

【トラファルガル海戰の年代】

一八〇五年。〔39海兵〕

【トラファルガル】

イスパニアの南岸、ジブラルタル海峽入口の西北に位せる岬角にして、此沖に於て一八〇五年十月二十一日イギリス艦隊が、總督ネルソンの下に、フランス、イスパニアの聯合艦隊を殲滅せしを以て有名なり。〔38神高商〕

【アウステルリッツ】

オーストリア、モラビアの一市。一八〇五年

十二月ナポレオンがロシア、オーストリア兩皇帝の聯合軍を破りて、其名聲を博したる古蹟なり。〔36東高師〕

【ライン同盟】

一八〇六年ライン地方十六洲、ドイツ帝國より分離して組織せる同盟にして、ナポレオン一世を戴きて盟主となせり。〔41四高〕

【ウエストファリア】

ドイツ西部の一州にして、一八〇七年ナポレオン之を一王國となし、弟ヂエロームを以て王となせしが、ナポレオンの滅亡と共に滅ぶ。〔41山高商〕

【神聖ローマ帝國の繼續せる時期】

九六二年より一八〇六年まで。〔33六高〕

【大陸令】(大陸封鎖)

ヨーロッパ全大陸を封鎖し、イギリスと大陸諸國との通商を禁じ、以て經濟上イギリスを苦めんとせしナポレオン一世の政策にして、一八〇六年ベルリン滯在の間に發せり。故に又一にベルリン命令とも云ふ。蓋しナポレオンはイギリスを屈服せんとて力を盡せしも、常に惱まされ、到底兵力を以て克つ能はざるを看破せし爲、かゝる手段に出でしなり。〔37早大、38神高商、42海兵〕

【モスクバ】

ロシアの古都にして、陸上貿易の大中心を占め、商工業盛なり。十三世紀蒙古の拔都の軍の爲陷れらる。十八世紀に於て三度大燒し、一八一二年ナポレオンのロシア遠征の際には大火あり、火滅せざること五晝夜、市街大半焦土と化せしが、其後漸く恢復し稍舊觀を呈せり。〔40各高等〕

【リウツエン】

北ドイツの小市なり。一六三二年十一月スウエーデン王グスタフアドルフがワレンスタインの軍を此に破り負傷して陣中に歿し、又一八一三年五月ナポレオン一世ロシア、フロシアの聯合軍を此地に破れり。〔35各高等〕

【ワーテルローの戰】

ヴィーン會議未だ決せざるに、ナポレオンは一八一五年二月密にエルバ島を脱し、フランスに上陸し、國民の歡迎を受け、忽ち數萬の兵を得て、パリに入り、帝位を復せり。ヴィン會議大に驚き、ナポレオンを以て破法者となし、之に開戰を宣言せしかば、ナポレオンは列國の兵の未だ集中せざるを機とし、直にベルギーに侵入し、プロシアの將ブリウツヘルをリンニーに破り、其將ネー又イギリス將ウエリントンをカトル・ズラーに破る。既にしてナポレオンは七萬の兵を率ひて、ウエリントンをワーテルローに攻め、勝敗未だ決せざるに、ブリウツヘル來り援ふに及び、ナポレオンの軍大に敗れ、倉皇パリに走り還れり。時に仝年六月十八日なり。〔36外語〕

【ワーテルロー】
ベルギーズラバンド州の一邑にして、一八一五年六月十八日ナポレオン一世とウエリントン公と戰ひ、ウエリントン最も能く力め、戰闘中プロシアの援軍を得て、フランス軍を粉碎せし地なり。〔39長高商〕

【一八一五年に起りし事件】
ワーテルロー戰爭。〔36專門〕

【ウエリントン】
イギリスの將軍兼政治家、一七六九年生る。初インドに渡て征服の功を建つ。ナポレオンの大陸封鎖を令するや、本國の命を受け、イスパニアに上陸し、ナポレオンの勢力を挫く。ナポレオンのロシアに敗れ還るや、同盟軍と共にフランスに侵入して、パリを陷る。次でナポレオンのエルバ島より逃れ歸るや、推されて同盟軍の元帥となり、大に之をワーテルローに破る。一八二八年トーリー內閣の首相となり、寺院會を廢し、舊敎徒自由法案を可決採用せしめしが、選擧法改革案に反對し、議員の反對を受け職を退く。一八五二年歿す。〔33海兵〕

【ヴィーン列國會議】
ナポレオンのロシア征伐失敗するや、プロシア、オーストリア、イギリス、スウエーデンの四國同盟し、一八一四年三月パリを陷れ、ナポレオンをエルバ島に流し、ルイス十八世をフランス王位に登らしめ、九月より列國ヴィーンに會し、善後策を講せしが、ポーランドとサクソニアとの處分に關して、列强の間に意見の衝突を起せり。然るにナポレオン此間に密にフランスに歸り、パリに入りしを以て列國再び同盟して、之を擊ち、ワーテルローに其軍を破り、パリに入り、ナポレオンをセントヘレナに流し、再びヴィーンに會し、樽爼折衝の末、(一)オーストリアはロンバルヂア、ベオチアを、(二)プロシアはサクソニ

アの北半、ワルシアワ公國の一部及ライン兩岸の地を得、(三)ドイツの三十九州はドイツ聯邦を組織し、(四)オランダはベルギーと合して、ネーデルランド王國となれり、(五)ロシアはワルシアワ公國の大部を得て、ポーランド王國を興し、(六)スウイスは聯邦の數を增して永久中立國となり、(七)スウエーデンはデンマルクよりノルウエーを得、イスパニア、サルヂニア、ナポリ法皇領等は舊君主故領を得て、位に復せり。(九)イギリスは列國の大陸に相攻伐せるに乘じ、其海上權を以てフランス及其與國の植民地を奪ひしが、是に至りて其權利承認せられ、地中海に於てはマルタ島を取り、イオニア七島の保護權を得、ヨーロッパ以外にてはセイロン島、ケープ・タウン等をも倂すこととなり、一八一五年六月閉會を告げ、歐洲の平和漸く恢復せり。〔37東高商、37海兵、41海兵、42陸士〕

【タレーラン】

フランスの政治家、一七五四年パリに生る。初僧侶たりしが、一七八九年國會議員となりてより、漸次其伎倆を現はし、革命の初期ミラボー等と王室保護に盡力す。一七九二年イギリス公使となり、一七九七年外務大臣となり、ナポレオン一世を助く。ヴイーン會議の時公使として列席し、巧妙なる外交手段を揮ひ、フランスの爲に利を收めたり。一八三八年死す。〔38東高師〕

【メッテルニヒ】

オーストリア外交家。公使としてドレスデン、ベルリン、パリ等に赴き、一八〇九年宰相となり、爾後四十年間國務の衝に當れり。一八一五年ヴイーン會議の議長となり、大に其手腕を振ひ、一八四八年オーストリアに革命起りし際、ヴイーンを逃れてイギリスに至り、次で四方を流浪し、一八五一年歸國せり。〔33東高師、39各高等、40各高等〕

【神聖同盟】

ロシア皇帝アレキサンデル一世の首唱により、一八一五年九月廿六日ロシア皇帝、オーストリア皇帝、プロシア王の間にパリにて批准せられし同盟なり。其目的は聖典の正義、仁愛、平和を主とし、ヨーロッパの平和秩序を維持し、且宗敎を保護せんとするにあり。此同盟にはイギリスとトルコとを除くの外、ヨーロッパ列國は悉く加入したり。〔35山高商、37專門、38長高商、40專門、41海兵〕

【アルヘンチナ獨立の動機】

フランス革命、及アメリカ合衆國の獨立は、モンテスキユー、ヴオルテア、ルーソー等の自由平等主義と相待ち、大に南アメリカのイスパニヤ植民地人心を動さしめ、續て本國に對

して反旗を飜せり。アルベンチナは一八一〇獨立を宣言せり。〔43長高商〕

【モンロー主義】

北アメリカ第五の大統領モンローが、一八二三年議會の贊同を經て、列國に通諜せし教書より起りたるものなり。南アメリカ諸國獨立を唱へしに當り、神聖同盟は之を改革運動なりとし、兵力を以て鎮壓せんとするや、モンローけ之に反對し、アメリカに於ける事件に對して、ヨーロッパ大陸の干渉を許さず、若し干渉を試むる者あらば、合衆國の平和と安寧とを害するものとして、斷然之に抗敵すべきを公言せり。爾來合衆國は此主義を執り、以て近時に及べり。〔36各高等、36陸士、38專門、38長高商、42海機〕

【モンロー】

アメリカ政治家、一七五八年生る。一八一七年選ばれて大統領となり。モンロー主義を發表してヨーロッパに對抗したるを以て知らる。一八三一年歿す。〔40專門、43外語〕

【一八一七年に起りし事件】

モンロー大統領となる。〔33一高〕

【近世ギリシア、獨立の次第】

ギリシアは久しく人種宗教を異にせるトルコの專制政治に苦みしが、自由主義の氣運に乘じ、一八二一年遂に叛旗を擧げたり。ヨーロッパ諸國民同情を寄せ、來り援くる者多かりしも、エジプトの藩王メヘメット・アリ、トルコ帝の請に應じ、子イブラヒムをしてギリシア軍を擊たしめ、大に之を破れり。一八二七年イギリス、フランス、ロシアの三國相聯合して共にギリシアを扶くるを約し、同年聯合艦隊はナバリノにトルコ艦隊を殲滅し、ロシアは別に兵をバルカン半島に出して、コンスタンチノプルを壓迫したり。是に於てトルコ遂に屈し、一八二九年アドリアノプルに媾和し、ギリシアの獨立を承認せり。一八三二年ギリシアはバワリア王の子オトーを迎立して、王政を布き其獨立を完成せり。〔42陸士〕

【ナバリノ海戰及其イギリス、ロシアに及ぼせる影響】

ギリシア獨立戰爭の時、ギリシアを助けんが爲組織せられたるロシア、イギリス、フランスの聯合艦隊が、一八二七年トルコエジプトの艦隊と激戰し、殆どトルコの海軍を殲滅せり。是より形勢一變し、ロシアはトルコに開戰を宣言し、既にしてイギリスは同盟を退き、ロシアのみ單獨運動をなすに至れり。〔33海兵〕

【七月革命及其影響】

一八三〇年フランスに總選擧あり、自由黨の議員多數を占めしを以て、國王カロロ十世は勅令を發して、未召集せさる議會を解散し、

選擧法を改め、又出版の自由を拘束したり。是に於て同年七月パリの市民遂に蜂起して、王宮を圍み。王出奔してイギリスに遁れ、オルレアン公ルイ・フィリポ迎へられて王位に登り、稱してフランス國民の王と云い、列國の承認を得たり。之を七月革命と云ふ。其影響はベルギーに現れ、其國人叛旗をブルッセル・に擧げ、オランタ軍を擊退し、遂に獨立し、ポーランドにては、其國人叛旗をワルシヤワに擧げしが、ロシア軍に破られ、全くロシアの領土となり、イタリアにてはローマ法王領に自由統一運動起りしが、オーストリアに鎭定せられ、ドイツにてはヘッセン・カッセル、サクソニア、ハンノフェル等に自由主義の運動起りて、立憲政を見るに至れり。〔34東高師〕

【ベルギーの獨立したる動機】

オランダとベルギーとば、ヴイーン會議后合してネーデルランド王國となりしも、互に融和せず。加之王ウイルレムは、オランダ人を揚げ、ベルギー人を抑えしかば、ベルギー人は常に不滿を懷きしが、適一八三〇年フランスに七月革命あるに及び、八月末ベルギー人叛旗をブルッセルに擧げ、オランダ軍を擊退せり。列强革命の波及を恐れ、ロンドンに會議し、其獨立を承認し、次でサクスコーブルクの公子レオポルド迎へられて、ベルギー王となれり。〔43長高商〕

【トーリー黨】

イギリスに於て、ウイッグ黨に對する一政黨にして、カロロ二世の時起ろ。保守主義を代表し現在の保守黨の始なり。〔38東高師〕

【非穀物條例同盟】

第十九世紀の初期イギリスに於て、地主派が穀物價格の低落を防がん爲に、設けたる穀物條例の廢止を目的として、マンチエスターにて組織せるものなり。一八四六年其廢止案議會を通過し、大に下民の窮狀を救ふを得たるを以て、一八四七年解散せり。〔43七高〕

【メヘメッド・アリ】

アルバニアに生れ、一八〇四年トルコ帝よりエジプトの太守に任ぜられ、ギリシア獨立戰爭に當り、トルコを援けたる功により、キプロス、クレテ二島を得しが、滿足せず。更にシリアを要求し、一八三一年兵を出して之を侵し、更にコンスタンチノプルに迫る、ロシア乃ちトルコを救ふを名とし、大兵を派しければ、ヨーロッパ諸國ロシアの野心を恐れ、斡旋して、シリア及小アジアのアダナをエジプトに割かしめしが、其後アリはフラシスの援を恃み再び兵を擧げ、連りにトルコを破る。是に於てイギリス、ロシア、オーストリア、プロシアの四國同盟してトルコを助け、エシプト軍

を破りしかば、アリ遂に屈して、シリア小アジアを奪はれ、エジプトのみ領有することゝなれり。〔43海兵〕

【二月革命】

フランス王ルイス・フィリポ專制を極めしかば、一八四八年二月暴民忽ち起り、革命運動を起し、王をイギリスに追放し、共和政治を立つ。之を二月革命と云ふ。〔37陸士〕

【フランス帝國再建の梗概】

ルイス・ナポレオンは、一八四八年フランス大統領に選擧せられてより、鋭意民心の收攬に勉め、一八五一年クーデターを行ひて新憲法を定め、十年間の大統領となり、翌一八五二年十一月フランス帝國の再建を宣言し、國民投票に大多數を得て遂に帝位に登り、ナポレオン三世と稱せり。〔42商船〕

【ナポレオン三世】

ナポレオン一世の姪なり。一八四八年二月革命起り、共和政となるや、任期四年の大統領に當選し、一八五一年クーデターを行ひて、新憲法を定め、大統領の任期を十年となし、翌年國民投票に大多數を得て、遂に帝位に登り、ナポレオン三世と稱す。クリム戰役に際し、トルコを援け、又イタリヤ統一軍を助け、フランス國民がプロシアの强大を憎める民意を行んが爲、イスパニア王位に關して口實を設け、一八七〇年七月プロシアと戰端を開きしが、同年九月一日セダンに大敗し、殘兵を以て降り、捕虜となり、一八七一年遂にイギリスに逃れて身を終れり。〔42各高等〕

【クリム戰役】

ロシア帝ニコラ一世はトルコの衰弱に乘じ、イギリスと共に之を分割せんと謀りしも、イギリス之に應ぜす、却てフランスと結びてロシアの南下を監視せり。當時ローマ舊教徒ギリシア正教徒とパレスチナの靈蹟管理權を爭ひしかば、ナポレオン三世は民心を收攬する爲トルコに迫り、之を舊教徒の手に收めたり。ロシヤ帝怒り、トルコ內のギリシヤ教徒保護權を求めしも、トルコ之を容れざりしかば、一八五三年トルコに宣戰し、兵をドナウ河畔に進め、又トルコの艦隊をシノペに擊破し、トルコを危殆に瀕せしめたり。是に於てイギリス、フランス、トルコと同盟し、翌年ロシアに戰を宣しクリム戰役茲に起れり。是に於てロシアは要塞の防禦を嚴にして、之を死守し、聯合軍はクロンスタツトを攻擊し、次でクリム半島セバストポールを攻圍せしが、塞氣と疫病とに仆るゝ者算なく、一時非常の苦境に陷りしが、サルヂニアが一萬五千の援兵を出するに及び、大に力を得、包圍約一年遂に之れを陷れたり。是より先ニコラ一世既に

歿し、アレキサンデル二世立ちしが、一八五六年パリに媾和條約を締結し、(一)黑海を中心とし、(二)ロシア、トルコの兩國は其沿岸に海軍造兵廠を設けざると、(三)海上警備用の輕小なる武裝船の外、一切の軍艦を浮べざるを約し、(四)ロシアはトルコ内ギリシヤ敎徒保護權の要求を撤し、(五)ドナウ河口地をトルコに還し、(六)トルコはギリシヤローマ兩敎徒に同等の權利を與ふることを約せり。〔36郵電、38長高商、38專門、40各高等42海機〕

【ニコラ一世】

ロシア皇帝アレキサンデル一世の弟、一八二五年即位し、トルコの勢を挫かんと欲し、イギリス、フランスと同盟し、ギリシヤを助けてトルコ海軍をナバリノに殲滅す。又屢ペルシアと兵を交へしが、後トルコを蠶食せんとして、遂にクリム戰役を惹起せり。〔33六高〕

【コルチヤコフ】

ロシアの政治家、一七九八年生る。一八五四年より三年間ヴイーン駐在公使となり、クリム戰役間に大手腕を著はし、後永く外任公使となり、プロシヤ、フランス戰役にオーストリアノ中立を助く。ロシアトルコの戰役起るや、サン・ステフアノの條約を結び、次でベルリン會議に失敗を取り、一八八三年死す。〔37早大、40女高師〕

【クリム】

ロシア帝國の南方黑海中に突出する半島にして、西端にセバストポールあり。一八五四年より五六年に至るクリム戰爭の時、イギリスフランス聯合軍の爲圍まれ、攻鬪十一ケ月にして陷りたり。〔38陸士、41海兵〕

【セバストポール】

ロシアの南部クリム半島にある天然の良軍港なり。一八五四年より五六年にかけ、イギリス、フランスの聯合軍、之を包圍攻擊すること十一ケ月の長きに亘り、漸く陷落せしめたる堅牢の砲壘なり。〔35千醫專、38陸士〕

【ナイチンゲール】

イギリスの博愛家、一八二〇年に生る。病人看護術を研究し、クリミヤ戰役起るに及び、スタンリー孃等篤志看護婦數十人と共に戰地に赴き、傷病兵の看護に力を盡す。後の赤十字社の起源者なり。〔37外語〕

【赤十字社の起源及我國加盟の年代】

クリム戰爭に當り、ナイチンゲール孃が篤志看護婦數十名と共に戰地に至り、傷病兵の救護に奔走せしとは、後の赤十字社の起源の萠芽といふべく、次て一八五九年のイタリア統一戰役の際、醫療看護の設備不完全なりしと等より、スウイス人ヂウナン等大に盡力し、一

八六三年有志仁人のジウ子ーブ會合となり、諸國に續々赤十字社起るに至る。翌一八六四年ジウネーブ協商成立す。我國の加盟せしは一八八六年(明治十九年)なり。〔36各高等〕

【サルヂニアのイタリア統一事業】

サルヂニア王ビクトリオ・エマヌエロ二世は、イタリア統一の業を以て志となし、賢相カブールに任じ、クリム戰役に出兵して、フランス、イギリスの歡心を得、ナポレオン三世と密約し、聯合してオーストリアと開戰して之を破り、一八五九年チウリヒ條約により、ロンバルヂアをサルヂニアに割き、トスカナ以下諸小國を其舊主に還すととなりしが、イタリアの諸小國之に從はざりしかば、エマヌエロはナポレオンと謀り、フランスにニースサボヤ兩地を與へ、自ら諸小國を合併するを約し、次で軍を南に出し、法王領の大部を略し、ナポリ領に入れり。此際ガルバルヂ亦義勇兵を率ゐシチリア、ナポリ等を征服し、之をサルヂニア王に獻ぜしかば、一八六〇年王はベネチア、及法王領以外のイタリアを統一し、翌年エマヌエロイタリア王の位に即き統一の業を成せり。後一八六六年ベネチアを得、一八七一年ローマを取り、全イタリア統一の大業を玆に完成せり。〔36外語、37華門、40專門、41陸士、42專門〕

【カブール】

サルヂニアの大政治家、一八一〇年生る。ビクトリオ・エマヌエロ二世の宰相となり、イタリア統一を圖り、クリム戰役に出兵し、一八五六年パリの媾和會議に出席して、自國の地位を高め、次でナポレオン三世と結び、オーストリアと開戰し、遂にイタリアの統一をなす。一八六一年卒す。〔34各高等、43東北農〕

【カリバルヂー】

イタリアの志士、一八〇七年生る。一八四八年マツチニと結び、ローマ市民を煽動して法王を追ひしが、フランス兵來り擊つに及び、アメリカに流寓し、一八六〇年ビクトリオ・エマヌエロ王がイタリア統一をなさんとするや、之に應じて兵を起し、シチリア、ナポリ等を征服し、之をサルヂニア王に獻せり。〔38外語、40女高師〕

【マッチニ】

イタリアの志士、一八〇八年ジェノバに生る。一八四八年カリバルヂーと共に、ローマ占領を企て事成らず。フランス、スウイス、ロンドン等に流寓し、一八七二年死す。〔37外語〕

【アメリカ合衆國の南北戰爭】

アメリカ合衆國はポトマク・オハイオ兩河によりて、自然に南北に境せられ、隨て政治上經濟上の相違を生じ、北部諸州は、氣候寒冷土地不毛なれば、專ら製造業に從事して自由

勞働者を用ゐ、南部諸州は氣候溫暖地味良好なるを以て、奴隷を使役して綿穀物を耕作せり。かくて北部に根據を有する共和黨は、奴隷使役を人倫に背くとなし、常に其廢止を唱へ、且製造原料の輸入税を低減せんと勉め、南部に勢力ある民主黨は之に反對して、奴隷輸入を主張し、兩黨の爭年と共に激しかりき。既にして北部諸州にはヨーロッパの移住者激增せしかば、共和黨大に勢力を得、一八六〇年共首領リンカーン大統領選擧に當選せり。南部諸州之に服せず、北部より分離し、アメリカ聯邦を組織し、シェッフアーソン、デービスを大統領に撰擧し、都をリチモンドに奠め、翌年遂に北部諸州と開戰せり。南軍初優勢にして頻に北軍を破り、ウオシントンに迫りしが、後形勢一變して、北軍多く勝利を得、一八六五年に至り、北軍の將グラント遂に南軍の將リーを降し、リチモンドを陷れしより、南部の諸州アメリカ聯部を解きて、復合衆國に合し亂收れり。此役五年に亘り兩軍の死傷甚多く、國債二十七億弗に及ぶ。又憲法を改正し、奴隷の使役を嚴禁し、黑人にも撰擧權を與ふることとなれり。〔34海機、35女高師、35東高商、38海兵、40海機、41山高商、43七高、43東北農〕

【リンコルン】

北アメリカ合衆國第十六代の大統領、一八〇九年生る。少時苦辛して勉學し、國會議員となり、一八六〇年選ばれて大統領となる。就職後間もなく南北戰爭起る。一八六三年奴隷廢止を實施し、一八六四年大統領に再選せられしが、翌年兇徒の爲銃殺せられたり。〔33東高師、36外語、40女高師〕

【ドイツの關稅同盟】

一八一九年以來、ドイツ國に結ばれたる同盟なり。ドイツの統一を企望すること多年なりしが、成らざるを以て、北ドイツ諸國はプロシア王を盟主となして此同盟を組織し、相互の境界關稅を廢し、他の境界關稅收入の總額を人口に比例して分配せしが、一八三四年に至りドイツ諸國皆加入し、プロシアの勢を增せり。〔42七高〕

【プロシア、オーストリア戰役】

原因

プロシアとオーストリアとは、互に相頡頏し、永くドイツ國内に兩立し難き勢なりしが、一八六一年ウイルレム一世プロシア國王となるや、オーストリア排除、ドイツ統一を以て志となし、ビスマルクを宰相に、モルトケを參謀長に任用し、頑强なる議會の反抗を省みず、大に軍備を擴張し、密に其機の到るを待てり。適一八六三年シウレスウイヒ及ホルス

タインの兩公國デンマルクに反き、援をドイツ聯邦に求めしかば、翌年オーストリア、プロシアの聯合軍大にデンマルクを破り、兩公國及ラウエンブルクをドイツに割讓せしめたり。然るに兩公國の善後處分に關して、オーストリア、プシロシャの議合はず。一八六六年プロシアは兩公國を合併せんとするに及び、兩國遂に開戰するに至れり。〔42七高、43各高等〕

戰況

此役イタリアはベネチアを併する機到れりとなし、プロシアと同盟せしが、ドイツにては北方の小國を除く外、概ねオーストリアに結べり。プロシアはモルトケの作戰計畫と、精銳の軍隊とを以て、忽ちハンノフェル、サクソニア等を略し、ボヘミアに入り、オーストリア軍を大にケーニヒグレーツに破り、進でプラーグを陷れ、ヴイーンに迫れり。イタリアに於てはオーストリア軍利あり。陸軍はクヌトワッアに、海軍はリッサに共に大捷を得しも、本國の大敗の爲に、遂に和議を結ぶこととなれり。

結果

オーストリアは遂にプロシアに敵する能はざるを以て、一八六六年八月廿三日プラーグに和議を結び、（一）オーストリアはドイツ聯邦、同盟の解散を承認し、（二）オーストリアはドイツ聯邦より分離してドイツ帝國の新立を承諾し、（三）オーストリアはシウレスウイヒ、ホルスタインに關する一切の權利をプロシアに讓り、（四）オーストリアは二千万ターレル（約三千万圓）の償金をプロシアに支拂ひ、（五）オーストリアはイタリアにベネチアを割讓せり。プロシアは宣戰より僅に三ヶ月にして、かゝる大效果を收め、猶ハンノフェル以下諸小國を併合し、翌年北ドイツ聯邦を作り其盟主となり、國勢頓に勃興せり。又オーストリアはホンガリア王國の建設を許し、オーストリア帝其王位を兼ぬることゝなれり。〔42七高、43各高等〕

【サドワ（ケーニヒグレーツ）戰爭の結果】

一八六六年ケーニヒグレーツの附近サドワに於て、プロシア軍はオーストリア軍を粉碎し、次てプラーグを略し、ヴイーンに迫りしかば遂にプラーグの和議成れり。〔34各高等〕

【ドイツフヲンス戰役】

原因

ナポレオン三世はプロシアの勃興を嫉み、之と國勢の均衡を保たんと欲し、一八六七年オランダよりルクセンブルクを買收せんとせしも、プロシアの抗議の爲に、之を果す能はざりき。帝は先にメキシコ事件に失敗し、今復此失

敗を重ね、頗る威信を墜しゝかば、國民の希望に從ひ、プロシアも亦ドイツ統一の爲に、フランスと一戰するの必要を見、準備怠なかりき。適一八六八年イスパニアに內亂起り、國人女王を廢して、プロシアの一族レオポルド公を迎立せんとせしが、公はナポレオンの抗議に會ひて之を辭せり。然るに帝は更にプロシア王に迫り、再び其一族をイスパニア王たらしめざるの誓言を得んとせしかば、プロシア王斷然之を拒み、遂にナポレオンは戰をプロシアに宣するに至れり。時に一八七〇年七月なり。

戰況

是役プロシアは動員立ろに成り、南ドイツ諸國亦舊怨を棄てゝプロシアを援け、總軍八十五万敵愾心燃ゆるが如く、之を率ゆるモルトケの戰略巧妙を極め、直に三軍を編成し、侵入軍を擊退して、フランス國境を踰えたり。フランス軍の兵數僅に三十二万、動員機を失し、元帥バゼーヌはメッツに圍まれ、ナポレオンは元帥マクマオンと共に亦セダンに圍まれたり。九月セダン遂に陷り、ナポレオン其全軍を率ゐて降り、プロシア軍進でパリを圍めり。次でメッツ陷り、ガンベッタのパリ救援軍亦敗れ、パリ重圍を受くる四ヶ月、翌一八七一年一月食盡きて遂に降せり。

結果

パリ城ドイツ軍の爲重圍を受くると四ケ月、一八七一年一月廿八日食盡きて降を請ひ、二月廿六日ベルサイユ假條約を結び、フランスは、(一)エルザス及ロートリンゲンの割讓と(二)五十億フラン(約廿億圓)の償金を約し、次でフランクフルトに之を確定したり。戰役中イタリアはフランスのローマ守備兵の撤せるに乘じて、ローマを取り、其統一を完成し、ロシアは黑海中立に關するパリ條約破棄の宣言をなし、又プロシアの武名大に揚り、遂にドイツ統一をなすに至れり。〔33東高師、東高商、38商船、38外語、39各高等、39專門、40山高商、43各高等〕

【ドイツ、フランス戰役の年代】

一八七〇—七一年。〔39海兵、40女高師〕

【セダン】

フランスの北東部、マース河畔に在り。ドイツ、フランス戰爭の時、ナポレオン三世は其將マクマオンと共に、ドイツの侵入軍と戰ひ大敗し、防備不完全の上糧食缺乏し、到底長く支ふべからざるを知り、遂に一八七〇年九月二日力竭きて降伏せし古戰場なり。〔38神高商、43外語〕

【マクマオン】

フランスの將軍兼政治家、一八〇八年生る。イタリア統一の際ナポレオン三世に從て功あ

り。プロシア、フランス戰役の時セダンに圍まれ、ナポレオン三世と共に降る。一八七三年フランス大統領となり、新憲法を設く。一八九三年死す。〔36外語〕

【スエズ運河開鑿の年代及當時エジプトの内政及外國との關係】

スエズ運河はフランス人レセップスがエジプト藩王と共同して、開鑿し、一八六九年成りしが、エジプトは之か爲に財政の困難を來し、加ふるに獨立を圖る爲、トルコに献金せしかば、國債山の如く、遂に一八七五年スエズ運河の株劵をイギリスに賣却せしかば、イギリスはフランスと共に、債主としてエジプトの財政を管理し、其内政に干渉せり。〔39商船〕

【スエズ運河の落成の年代】

一八六九年。〔39海兵〕

【レセップス】

フランスの人、ベルサイユに生る。初エジプトに赴き、紅海と地中海とを連結して、東西兩洋の航路を短縮し、以て世界の交通に資せんとの志を抱き、エジプト王に說きて運河會社を設立し、本國に歸りて株劵を募集し、一八五四年開鑿を始め一八六九年完成し、其名聲大に揚る。後更にパナマ運河開鑿の計畫をなせしが成らずして一八九四年歿せり。〔36各高等、36郵電、42長高商、42海機〕

【アラビ・パシアー】

エジプトの武官、イギリス、フランスのエジプト内政に干渉するや、一八八一年國民黨の首謀者となり、武力を以て兩國の官吏を殺戮し、自ら内閣を組織して、陸軍大臣となりしが、イギリス軍の爲捕へられ、セイロン島に流され、終身禁錮に處せらる。〔38山高商〕

【イギリスのエジプトに對する保護權獲得】

エジプトはスエズ運河の開鑿、及獨立を得る爲、トルコへの献金等より、財政困難となり、遂にイギリス、フランスの二國財政を管理し、其内政に干渉さるに至りしかば、國内に國民黨起り、一八八一年武官アラビ、パシアー兵を擧ぐ。イギリス乃ち兵を出して之を鎭定し、フランスは之に與らさりしを以て、爾後イギリスは財政管理權を獨占し、軍隊を駐屯し、事實上エジプトは其保護國となれり。〔43陸士〕

【十九世紀に於けるドイツ帝國建設の始末】

一八七〇年より七一年に亘るドイツ、フランス戰役の結果、プロシアの武名大に揚り、ドイツ統一の事業大に進捗し、一八七一年一月全ドイツの君主ベルサイユ宮殿に集り、プロシア王ウルヘルム一世推されて、ドイツ皇帝の位に登る。同年三月聯邦議會をベルリンに

開き、ドイツ憲法を制定し、プロシア王は世々ドイツ皇帝として、帝國の大權を掌握し、各聯邦を代表せる聯邦議會と、國民を代表せる帝國議會とを置き、統一の事業玆に完成せり。〔41三高〕

【一八七一年に起りし事件】

パリ陷り、ドイツフランス戰役終り、次でドイツ帝國建つ。〔39外國〕

【始めドイツ皇帝の位に即きたるプロシア王の名及年代】

プロシア王ウイルレム一世にして一八七一年なり。〔39海機〕

【ドイツ勃興の原因】

ヴイーン會議後オーストリアは、ドイツ聯邦の牛耳を執りしが、プロシアは北ドイツ諸國を聯合して、關税同盟を組織し、次で南ドイツ諸國も亦之に加はりて、プロシアの勢オーストリアと頡頏せり。一八四八年ドイツ國民議會開會され、オーストリアを除きて、ドイツ帝國を建てんとし、プロシアは軍備擴張、兵制改革を斷行し、シゥレスウイヒ・ホルスタイン問題より、オーストリアと開戰して之を破り、次で北ドイツ聯邦の盟主となり、南ドイツ諸國と攻守同盟を結び、かくて國勢頓に勃興するに至れり。〔36專門〕

【ビスマルク】

ドイツの有名なる宰相にして、近世の偉人の一として數へらる。一八一五年ブランデンブルグに生れ、ゲッチンゲン及ベルリン大學に學び、ロシアフランス公使として駐在せしが、一八六一年ウイルヘルム一世に擧げられて、内閣議長となり、王を補佐して、議會の反抗に屈せず、軍備擴張、軍制改革の業を遂げ、所謂鐵血政略によりて、プロシアを覇者となし、ドイツ聯邦を合一せんとす。既にしてシゥレスウイヒ・ホルスタイン問題起るや、一八六六年オーストリアと兵を交へ、連戰連勝之を屈し、北ドイツ同盟を作り、更にイスパニア王位繼承の名の下に、一八七〇年フランスと戰端を開き、之を破りて遂にドイツ統一を完成す。既にしてイギリスがサン・ステフアノ條約に對し、强硬なる抗議をなし、オーストリアの助を得て、ロシアに向ひ、戰備を修むるや、自ら仲裁の勞を取り、一八七八年ベルリン會議にて、事無きを得せしむ。其他彼の内治外交に對する功績の、赫々として偉彩を放てるもの多し。一八九〇年辭職し、一八九八年歿す。〔33海兵〕

【モルトケ】

プロシアの將軍、一八〇〇年生る。一八三二年參謀官となり。一八六三年及四年のデンマルクとの戰爭に名を擧げ、續てプロシアオー

ストリア戰役及プロシア、フランス戰役に非凡の才を現し、ドイツ統一成りし後、ビスマルクと共にウイルヘルム一世を助けて、大に功を樹てたり。一八九一年卒す。〔33一高〕

【チエール】

フランスの政治家にして、且歴史家なり、一七九七年生る。初代議士となり、次で七月革命の起るや、オルレアン公ルイス・フイリポを迎立して、王となし、其首相となりしが、エジプト事件に失敗して、職を辭せり。其後ドイツ、フランス戰爭に際し、ナポレオン三世セダンに虜となり、パリー政府降伏するや、ガンベツタと共に國政に預り、和議を締結し、一八七一年第三共和政最初の大統領となれり。著はす所フランス革命史等あり。一八七七年歿す。〔43陸士〕

【プレブナ】

ブルガリアの東部、ニコポリスの北西二七哩に位す。ロシア、トルコ戰爭の際、一八七七年ロシア軍此要塞を圍みしが、トルコの將オスマン・パシア能くロシア軍を防ぎ、屢之を破りしが、籠城數月糧盡き兵疲れ遂に降れり。〔40女高師〕

【サンステファノ條約の由來及結果】

一八七七年ロシアトルコ戰役に於て、トルコはロシアの爲大に破られしかば、恐れてイギリスの援助を求む。ロシアはイギリスの干渉の自國の不利なるを察し、急にトルコのコンスタンチノープルの西南マルモラ海邊の一小村サン・ステフアノに於て講和し、トルコをして、(一)モンテネグロ、セルビア、ロマニアの獨立を許し、(二)キリスト敎の公を奉ずる廣大なるブルガリア半獨立國を建て、(三)ヨーロツパに於てドブルヂア、アジアに於てアルメニアの大部をロシアに割き、別に償金三億ルーブル(約三億五百万圓)を出すを約せしめたり。然れどもイギリスはオーストラリアと共に、ロシアの要求を過大なりとして之に抗議し、既にロシアと開戰の準備に及びしが、ビスマルク共間を調停し、ベルリンに列國會議を開き、ロシアをして前條約を破棄せしめ、更に條約を結ぶととなれり。〔38神高商、39海兵〕

【一八七八年のベルリン會議】

ロシア、トルコ戰役は、サン・ステフアノ條約により結了せしが、イギリスはオーストリアと共にロシアの要求を過大なりとして之に抗議し、既にロシアと開戰の準備に及びしが、ビスマルク共間を調停しベルリンに列國會議を開き、ロシアをして前條約を破棄せしめ、更にトルコをして、(一)モンテネグロ、セルビア、及ロマニアの獨立を承認し、(二)ブル

ガリアの領地を縮小して半獨立國とし、南部に東ルーメリアの自治州を置き、(三)トルコ領内に信敎の自由を公認し、(四)カルス外數地をロシアに、テッサリアをギリシアに、キプロス島をイギリスに割讓し、ヘルゼゴビナ、ボスニアの衞戍及行政をオーストリアに托せしめたり。〔37海兵〕

【一八七七年ロシアトルコ戰役の結果】

前三條を見よ。〔34東高師〕

【ベルリン會議の年代】

一八七八年。〔33二高〕

【一八七八年に起りし事件】

此年ロシアトルコ戰役の結果なるサン・ステファノ條約を破棄せるベルリン列國會議あり。〔34專門〕

【リヴイングストン】

イギリスの宣敎師にして、又アメリカ探檢者なり。一八四〇年ポートナタルに上陸し、一八四九年ヌアミ湖に達し、ロアンダに至り、其後又サンベジ河の流域を探檢し、ヌヤサ湖を發見し、ナイルの水源を見出さんとし、遂に探檢中一八七三年歿す。〔42外語〕

【南アメリカ(トランスバール)戰役】

一八一四年イギリスは、オランダよりケープ植民地を得しが、其地のオランダ人イギリスの治下にあるを欲せず。北に移り南アフリカ後トランスパール（初名トランスパール）、オランイエ兩共和國を建てしが、後トランスパールに金、オランイエに金剛石大に出づるに及び、イギリス人多く兩國に入り、參政權を要求せり。兩國之を拒み、一八九九年イギリスと開戰し、屢敵軍を惱しゝも、衆寡敵せず、國力續かず。苦戰四年の後、イギリス遂に之を滅ぼし、兩國を取りて植民地となせり。〔43陸士候〕

【アメリカ合衆國建國以來の主要なる事件の年代順表示】

ルイジアナをフランスより買收す、

モンロー主義の發表、

合衆國の領地太平洋に達す、

南北戰役、

ハワイ合衆國に合併す。

合衆國とイスパニヤとの戰役、

フイリピン合衆國に編入す、

合衆國の帝國主義。〔37神高商〕

【グラント】

北アメリカ合衆國の將軍兼政治家、一八二二年生る。南北戰爭の起るや、一八六四年北軍の總大將となり、連戰功を奏し、翌年遂にリチモンドを陷る。一八六九年選ばれて大統領となる、一八八五年死す。〔35郵電、35各高〕

等〕

【ローズヴエルト】

一八五八年ニユーヨークに生る、アメリカ合衆國第二十六代の大統領なり。一九〇五年夏日露兩國をして、ポーツマウス條約を結ばしめしことは有名なり。其他經歷に就て、世人の知れること多ければ之を略す。〔40山高商〕

【アメリカ、イスパニア戰爭の原因及結果】

原因

一八九八年イスパニア領キウーバ島、及フイリッピン群島の人民、共に本國の秕政に苦み獨立を圖りしかば、アメリカ合衆國人民、大に同島民に同情を表し、遂に之を助けて、イスパニアと開戰するに至れり。

結果

イスパニア軍大に米軍の爲破られ、遂にフランスの仲裁により、パリに媾和す。其媾和條件の主なる箇條左の如し。

(一)イスパニアはキウーバの獨立を認むること。

(二)イスパニアは西インドに於て、ポルトリコ島を、太平洋に於てフイリッピン群島及グラム島を、アメリカ合衆國に讓與すること。

(三)アメリカ合衆國は、イスパニアに二千萬ドル(四千萬圓)を支拂ふこと。〔37外語〕

【カリフオルニア】

北アメリカ合衆國西部の一州にして、太平洋に臨む。鑛產農產等豐富なり。一八四七年メキシコより之を取りしが、翌年金鑛の發見より、移民入激增し、急速の進步をなせり。〔33六高〕

【バルカン半島】

ヨーロッパの南部三大半島中最も東に位するものにして、アドリア海とエーゲ海及黑海との間に突出し、小アジアと狹隘なる海峽を隔てゝ相對す。古代ギリシア文化の中心地として有名なり。今は數多の獨立國分立。〔43海經〕

【ヂスレーリ】

イギリスの政治家一八〇四年ロンドンに生る。國會議員となりて、大に名聲を擧げ、一八五二年大藏大臣となり、次で總理大臣となり、第二回選擧法改正案を通過せしむ。ロシア、トルコの戰役起るや、ロシアの政策に反對して兵威を示し、ベルリン條約を結ばしめて、其鋒を挫く。是より先貴族に列せられて、ベーコンスフイールド伯と稱す。一八八一年歿す。〔37各高等〕

【ベーコンスフイールド伯】

ヂスレーリを見よ。〔37専門〕

【ビクトリア女皇の治世中に於けるイギリスの植民政略】

オーストララシアに植民地を置きて、盛に拓殖をなし、印度に於ては東印度會社の政權を取りて、印度帝國を建て、南の方アフリカに於ては、エジプトを保護國とし、南の方トランスバール、オランイエ兩共和國を滅ぼして、植民地となし、アフリカ縱貫鐵道を經營しつゝあり。〔37神高商〕

【十八世紀乃至十九世紀間に於ける科學進歩の概況及其近世文明に與へたる效果】

第十八、十九世紀に於ける科學の進歩は、實に驚くべきものにして、天文、地理、理化、生物學等何れも非常なる發達をなせるが、イギリス人ニウトンは引力の法則を發見し、アメリカ人フランクリンは電氣上の發明をなし、ドイツ人マイエルは勢力不滅説を唱導し、イギリス人ダーウインの進化論を説きたる如きは、科學上の偉事にして、駸々として科學は隆盛の域に進めり。而して科學の進歩は、交通通信の機關に絶大の進歩を來し、汽船滊車の製造となり、電線、電話の發明となり、又醫術兵器等も大に發達をなし、其近世文明に與へたる効果擧げて數ふべからず。〔35郵電、40神高商〕

【十九世紀に於ける交通通信機關の發達】

十九世紀に於ける科學の進歩は、交通通信の機關に絶大の進歩を來し、アメリカ人フルトン蒸汽船を作り、一八〇七年始めて之をハドソン河に浮べ、イギリス人スチブンソンは滊車を作りて一八二九年之をリバプール、マンチエスター間に運轉したり。一八三三年ドイツ人ガウスは電流を應用して電信の法を發明し、アメリカ人モース之を大成して其應用愈廣まれり。海底電線は一八五〇年フランス、イギリス間の沈設を初とし、漸次遠距離に及び、一九〇六年太平洋海底をも横斷するに至れり。其他ライスの電話機、マルコニの無線電信の發明あり、郵便制度の發達と相待ちて、通信の便愈備れり。尚電車自動車の起るあり。空中飛行艇の研究亦大に進歩し、將に其實用の時代に入らんとせり。〔40名高工〕

【十九世紀に於ける科學應用上の大發明】

フルトンの蒸汽船、スチブンソンの滊車、エヂソンの電話、モースの電信、マルコニの無線電信。〔40海兵〕

【左の事物の發明者】

活版術　グーテンベルヒ、

蒸汽機關　ワツト、
汽船　フルトン、
滊車　スチブンソン、
寫眞術　ニエプス。〔37東高師〕

【ワツト】

一七三六年スコットランドに生る。初ロンドンの機械師に奉公し、後グラスゴー大學の數學機械師となり、蒸汽力の應用に關し研究を重れ、蒸汽機關を發明して大に其名を著せり。〔39各高工〕

【スチブンソン】

イギリスの機關師、一七八一年生る。苦心經營滊車の發明に從事し、一八一二年成功す、

其他鑛山安全燈をも發明す、一八四八年死す。〔36外語〕

【モールス】

アメリカ合衆國の發明家、一七九一年生る。一八一〇年エール大學を卒業し、電信機を發明す。一八七二年死す。〔38外語〕

【ベル】

一八四七年エヂンバラに生る、一八七〇年カナダに赴き。ボストンに於いて聾啞者教授に盡力せり。又電話機光音器等を發明す。〔36郵電〕

【十九世紀に於ける著名の事件の年代順表示】

ナポレオンの覇業
ヴイーンの列國會議
七月革命
二月革命
クリム戰役
イタリア統一
アメリカ南北戰役
プロシア、オーストリア戰役
ドイツ、フランス戰役
ドイツ統一
ロシア、トルコ戰役
ベルリン列國會議。〔36海兵〕

【十九世紀に起りし大戰爭】

トラフアルガルの戰
ワーテルローの戰
クリム戰役
アメリカ合衆國南北戰爭
ドイツ、フランス戰役
ロシア、トルコ戰役
日淸戰役。〔35海・機〕

【左記國々に於ける現今の君主若くは大統領の名】

アメリカ合衆國　タフト
イギリス　ヂョージ五世
ロシア　ニコラス二世
ドイツ　ウイルヘルム二世

フランス　アルマン・ファリエル
オーストリア　フランツ・ヨセフ一世
淸國　宣統皇帝。〔38山高商〕

【大平洋上に關係せる主なる歴史的事實の三箇】

一、マガリアエンスの世界週航
一五一九年ホルトガル人マガリアエンス、イスパニア王の命を受け、太西洋を横斷して南アメリカの南端より太平洋に出て、フイリピン群島を發見し、其身は此に歿せしも、部下尚續航して一五二二年本國イスパニアに歸り、始めて世界を週航せり。〔42神商〕

二、アメリカ合衆國々是の變更
アメリカ合衆國はモンロー主義を執ること七十年、內地の拓殖概ね成り、國力餘りあるを以て、其國是を變して帝國主義を採り、地を海外に開かんとせしに、偶一八九三年ハワイ王國に革命起りしかば、之に干渉し、五年の後遂に之を併せたり。又イスパニア領キユーバ島及フイリツピン列島の獨立を計かるを助け、西インド諸島及フイリピン群島を得、遂に太平洋中に海底電線を布くに至れり。

三、イギリス、ドイツの大平洋に於ける活動
イギリスは一七七〇年クツクのオーストラリア探檢に基き、十九世紀初より同島の拓殖を始め、更にニウージーランド、フイジー等附近の島嶼をも收めたり。ドイツ亦太平洋に注目し、一八八四年以來カイゼル・ウイルヘルムスランド、ビスマルク群島、マルシアル群島を得、又ソロモン、サモア兩群島の一部を得て拓殖に從事せり。〔42神高商〕

【現今世界に於て共和政治を施行せる國民】

スウイス、フランス。アンドラ、サンマリノ、リベリア、北アメリカ合衆國、メキシコ、グアテマラ、サルバドル、ニカラガ、ホンヂユラス、コスタリカ、パナマ、サントドミンゴ、ハイチ、キユーバ、コロムビア、エクアドル、ベネズエラ、ボリビア、パラグワイ、ルルグイア、ブラジル、アルヘンチナ、ペルー、チリ。〔37海機〕

【世界に於ける主なる宗教又之に屬する主なる國民】

佛敎　印度支那、支那、日本の人民。
印度敎　印度の人民。
基督敎　ヨーロツパ、南北アメリカの人民。
回敎　トルコ、印度、及アフリカの人民。〔37海機〕

【ハプスブルグ及ブルボン家の系統の現今君臨せる邦國】

ハプスブルグ家　今のオーストリア皇帝兼ホンガリア王。

ブルボン家　今イスパニアに君臨す。

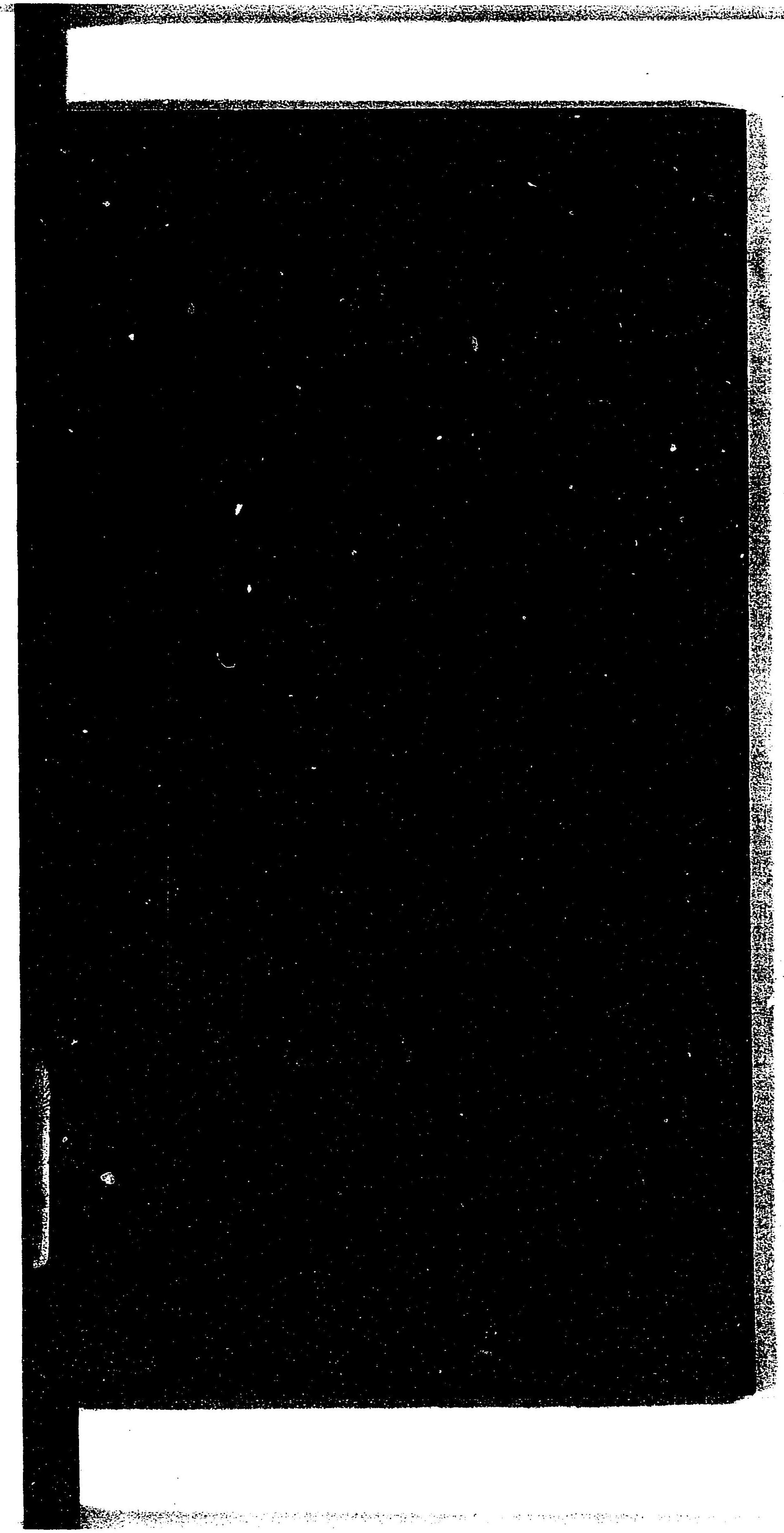
試驗問題講義歷史之部 終

不許複製

明治四十四年九月八日印刷
明治四十四年九月十一日發行
【定價金五十五錢】
（試驗問題歷史の部）

著作者　東京市下谷區仲御徒町一丁目六十一番地　文學士　瀨川克三
發行者　東京市京橋區尾張町二丁目二十六番地　川合晉
印刷者　東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　飯田三千太郎
印刷所　東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍工場
發行所　東京市京橋區尾張町二丁目二十六番地　東海堂書店
振替口座八六七、電話橋新一九二一、及二〇一五

266
501



049567-001-0

特61-713

試驗問題講義　歴史之部，地理之部

瀬川　克三／編

M44，45

BEM-0259

HISTORY

266
501